



2010 CSR Report  
環境・社会活動レポート



株式会社 エフピコ



イントロダクション

# エフピコ回想録

先を見越したいくつもの決断が  
現在の大きな飛躍に繋がったのです

代表取締役会長兼最高経営責任者

小松安弘

50年近いエフピコの歩みの中で、特に思い出深いエピソードを会長の小松安弘が語りました。1962年に24歳でエフピコを創業し、高度成長期やバブル崩壊を経て環境重視の経営へとシフトしてきた小松の信念は、常に「忍」の哲学と共にあります。今は辛くても、将来を考えて決断し行動することが、気がつけば大きな飛躍に繋がったのです。

## 300から12,500へ

1976年に自社独自の展示会「パールフェア」の第1回を開催しました。当時はテイクアウト弁当などの需要で売上げも伸びていましたが、そこで立ち止まってはいけないと思い、展示会の開催を考えたのです。

食品トレーの展示会を1社のみで行うというのは、おそらく業界初だったのではないかと思います。工場の中を片付けて製品を並べ、展示会の会場としました。

ただ、どれくらいの方に来ていただけるか分からず不安もあったので、隣町である鞆の浦の観光イベント「鯛網」と抱き合わせにするという企画にしました。鯛網は、鞆の浦に約370年も伝わる伝統漁法で、観光客は船の上からこの鯛網漁を楽しむことが出来るのです。鯛網をご覧いただいた後お客様を送迎バスで「パールフェア」会場までお連れするという趣向です。



しかし、結局来場していただいたのは、300人不足だったのです。遠くは京都などの関西地区からお越しいただいたお客様もいらしたものの、さすがに300人というのは少ない気がしました。これが自社展示会の第一歩です。

その後1985年には「パールフェア」を東京でも開催し、1997年からは「エフピコフェア」として東京ビッグサイトを会場とした独自の展示会を開催しています。2010年3月の「エフピコフェア」には3日間で12,500人近いお客様にご来場いただきました。

最初は300人のお客様でスタートした展示会ですが、「これが私たちが作っている製品です」とお披露目をする機会は絶対必要だと感じていました。現在の「エフピコフェア」では来場者であるスーパーマーケット関係者の方々の一助になるような情報発信や売り場づくりの提案もしています。

## 空から満へ

1979年には製品の配送体制を強化するため、自社の物流システムを抱えることを決断しました。それまでは大手の運送会社さんに製品を運んでいただいていたのです。しかし、この決断に対する周囲の反応は冷やかでした。誰もがリスクが大き過ぎると感じたようです。

この決断の裏には、物流の量が爆発的に増えるのではないかとこの予測があったのです。好調だった白トレーに加えカラートレーの販売も徐々にスタートしていた頃であり、これ以上物流の量が増えた場合には、自社でまかなう方が安くなるだろうと考えたわけです。結局その予測は間違っていないでした。

エフピコ製品だけを積んだトラックがスーパーや問屋を何度も行き来するほど取引量が増えていき、自社の物流網でなければ対応ができなくなったのです。

しかし、自社物流を持つという決断が本当の成果を生むのはその数年後でした。1990年にリサイクル事業を本格的にスタートさせたのですが、使用済みトレーを回収する際、製品を運んだ後の空車を利用することが大いに役にたったのです。当然のことながら、これは自社物流でなければできないことです。スーパーで回収され大きな袋に詰められた使用済みトレーの運搬は、一般の配送業者にとって非効率的な業務だからです。

現在では全国約7,700の店舗でトレーや容器の回収をしています。回収する量が多くなればなるほど、自社物流が威力を発揮するのです。



## マイナスからプラスへ

1980年代からスタートしたカラートレーが爆発的に売れ、食品容器の存在感が高まるに従って、廃棄物としての容器も大きく注目されるようになりました。その頃に全国で起きていたゴミ戦争も相まって、トレーに対するバッシングが起きたのです。そこでトレーのリサイクルを決意し、1990年にはリサイクル事業を本格化させました。



当時のトレーに対する批判的な論調には、凄まじいものがありました。お客様に安く提供できるものであっても、使用後に廃棄された時の姿にネガティブなイメージがあったのでしょうか。

### 取り扱い製品の移り変わり



トレーは衛生的で食品の持ち運びに便利、鮮度を保った商品保護ができるし、水分を含んだ食品にも対応できる。そもそも、食品流通に携わる企業にとって、トレーなしでの大量販売は不可能だったのです。

それでも社会的な問題になっていたゴミ処理の問題もあり、トレー不要論に立ち向かうのは社会の大きな流れに沿わないと感じました。「それならばゴミにしないでもう一度製品にしてみよう」と決断したことがリサイクル事業の始まりです。

お役に立てただけの製品として作ったものも、使用後に廃棄されれば「マイナス」で終わってしまう。でも使用済みのトレーをもう一度生まれ変わらせることができれば、それは社会にとっても環境にとってもお客様にとっても、そしてエフピコにとっても「プラス」になる。

もちろんリサイクル事業を軌道に乗せることも生半可な苦労ではありませんでしたが、今では多くの方々の協力をいただきながら、回収量を増やしています。

それでもリサイクル事業が大きな実を結ぶのは、もう少し先だと私は思っています。今までが常にそうだったように、過去の決断が大きな飛躍に繋がるには時間が掛かります。その時を楽しみに、もっともっとマイナスをプラスへと変えていくことを続けていくつもりです。



**2000年代** → 様々な用途に対応するバラエティ豊かな食品容器へと進化

▶肉、魚介類、野菜とさまざまな旬の素材の旨みや鮮度を演出する蓋付き鍋容器。汁漏れしにくい工夫がされている。



▶食品の持つ華やかさやみずみずしさを引き出す透明容器。サラダやカットフルーツなどに用いられる。



▶日本の食文化でもある弁当用の容器。仕切りを設けることにより、食べ易さを追求し、配色を引き立てる役割も果たす。



▲スクリュウタイプの蓋により横にしても汁が漏れにくい容器。家庭で保存用にリユースも可能。



主流だったラップに比べ、盛り付けや陳列効果を格段に高めた「蓋付容器」

## 2009年度CSRトピックス

2009年5月

西関東ピッキングセンター  
稼働開始



→P.32

2009年8月

岐阜県に新たなリサイクル工場  
用地を確保



→P.37

2009年10月

「ITpro EXPO 2009」  
審査員特別賞受賞

エフピコ愛パックの障がい者  
従業員ファッションショー出演



→P.37



→P.48

2009年11月

電気自動車を導入



→P.34

2010年3月

6年ぶり東京ビッグサイトでの  
「エフピコフェア」に  
環境コーナー



→P.37

# CONTENTS

イントロダクション「エフピコ回想録」……………	1
2009年度トピックス……………	5
目次／編集方針……………	6

## 会社概要 (P.7 ~ P.14)

企業プロフィール……………	8
組織及びグループ会社……………	9
製品紹介……………	10
対談：「食品流通の未来と環境保全」……………	11

## 経営における取り組み (P.15 ~ P.24)

コーポレートガバナンス……………	16
コンプライアンス……………	17
リスク管理……………	18
エコバリューチェーンの構築……………	19

## 環境における取り組み (P.25 ~ P.46)

環境方針／環境マネジメント体制……………	26
製品開発における取り組み……………	27
工場における取り組み……………	29
物流における取り組み……………	31
オフィスにおける取り組み……………	33
販売活動における取り組み……………	35
エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」…	38
工場見学の受け入れ……………	44
データで見る「環境における取り組み」……………	45

## 社会における取り組み (P.47 ~ P.55)

株主とのかかわり……………	49
消費者とのかかわり……………	50
お客様とのかかわり……………	51
障がい者の雇用……………	53
従業員とのかかわり……………	55
エフピコのあゆみ……………	56
編集後記……………	58

### 編集方針

この「2010 CSR Report」は、エフピコの2009年4月から2010年3月までの環境と社会活動における取り組みをまとめたものです。以下の方針に沿って編集しています。

■エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

■従業員と関係者のコメントを掲載し、組織の内側からの声を聞いていただくことを心がけました。

■レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」を参考にしました。

■対象期間：2009年4月1日～2010年3月31日

■対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

# Outline 会社概要

簡易食品容器の製造・販売を通して社会に貢献する、  
とはどういうことなのかをご説明します。

人と人、  
人と自然、  
企業と社会をつなぐ  
企業であるために。



食品容器をつくることは、おもてなしの心を表現することでもあります。

毎日の食卓に楽しいコミュニケーションや安らぎをもたらすために、豊かな食文化の創造は欠かせません。衛生的で効率的な食品流通に寄与し、食品を新鮮なまま食卓へと運ぶお手伝いをしているのが、トレーや透明容器などエフピコの簡易食品容器です。また、使用済み容器をリサイクルして自然環境への負荷を抑えることも、エフピコが長年実践している食文化創造のための活動です。

来社された方を笑顔でお迎えするおもてなしの心。その根底にあるのは、食文化を創造していることの誇りと社会的責務を果たす責任感です。

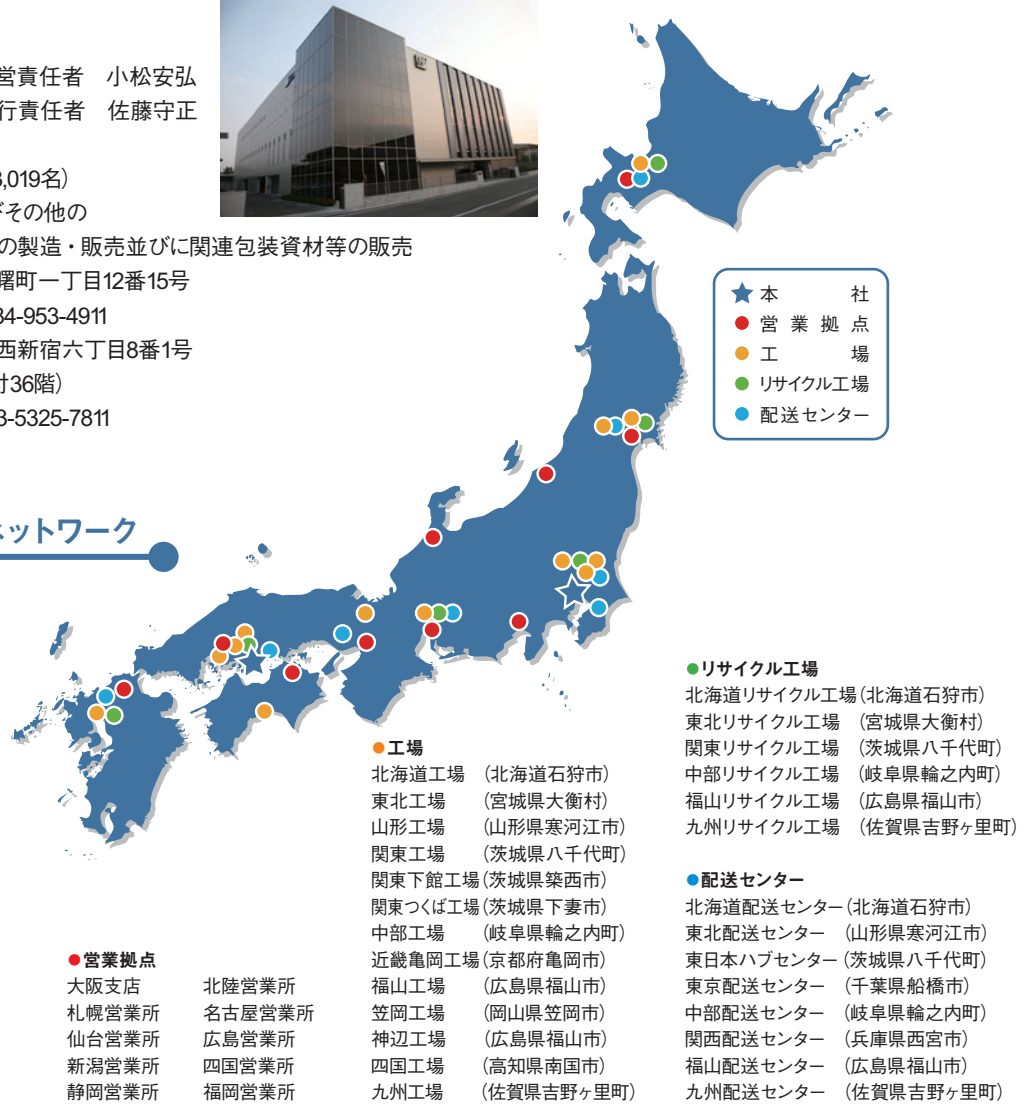


# 企業プロフィール

商号 株式会社エフピコ  
 設立 1962年(昭和37年)7月  
 代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者 小松安弘  
 代表取締役社長兼最高執行責任者 佐藤守正  
 資本金 13,150百万円  
 従業員数 667名(エフピコグループ:3,019名)  
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の  
 合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売  
 本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号  
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911  
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号  
 新宿オークタワー(総合受付36階)  
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

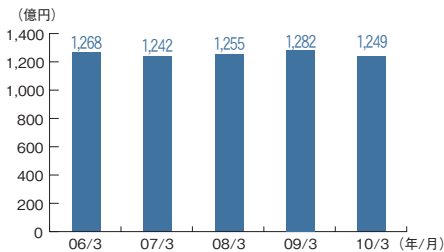


## ネットワーク

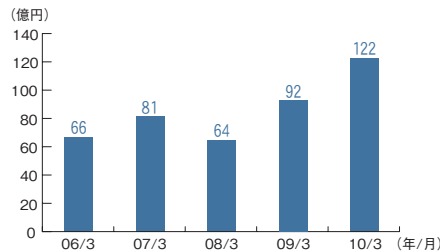


## 主要な経営指標

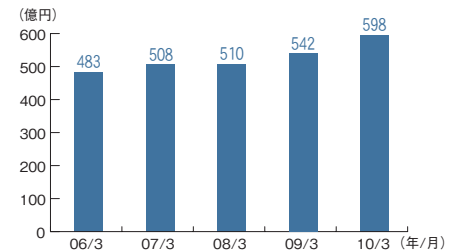
売上高(連結)



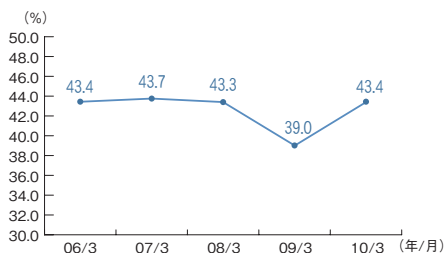
経常利益(連結)



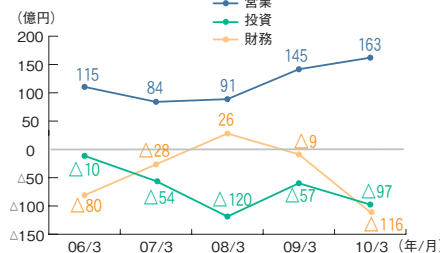
純資産額(連結)



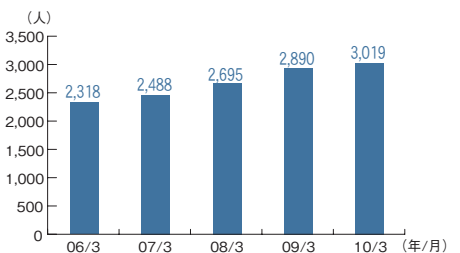
自己資本比率(連結)



キャッシュフロー(連結)

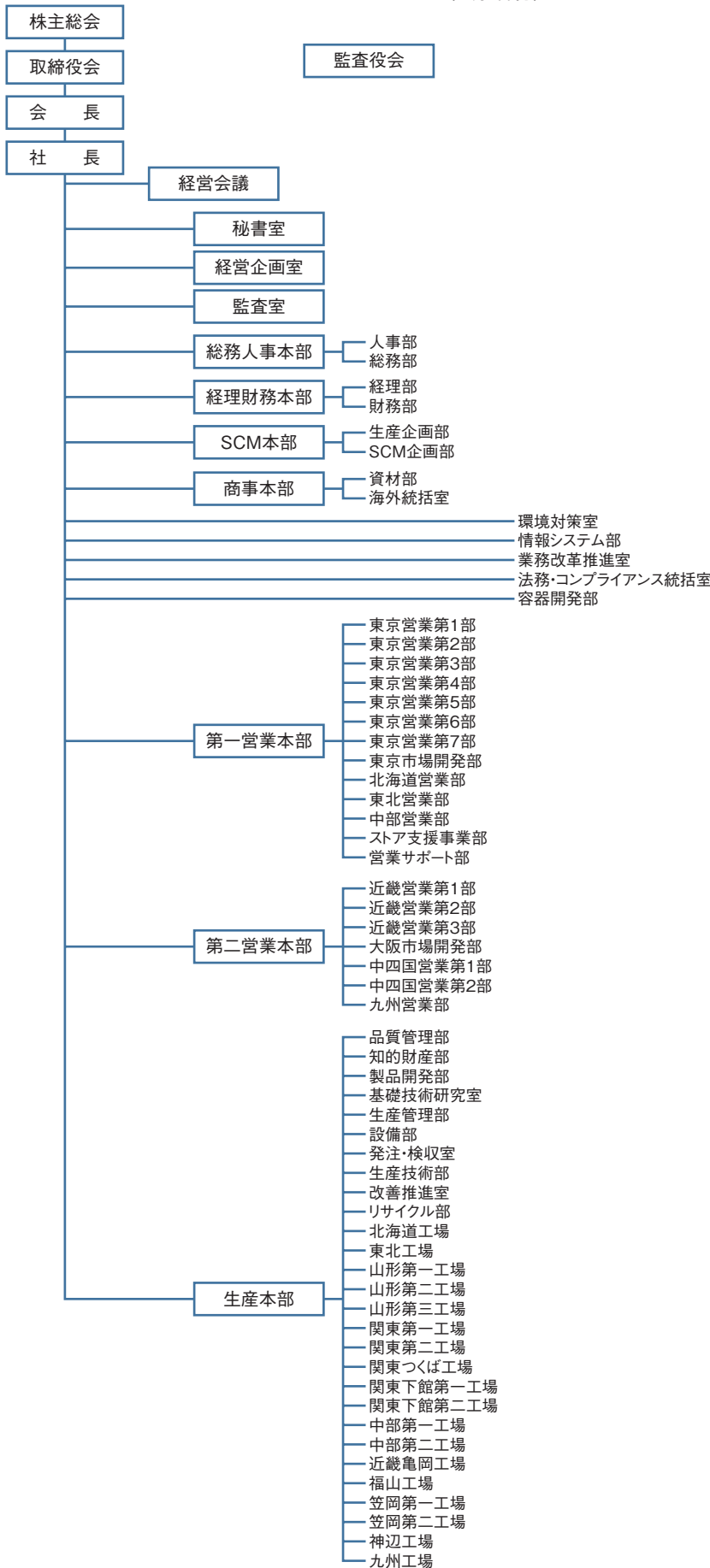


従業員数(連結)



# 組織及びグループ会社

※2010年4月1日現在



## エフピコをサポートする グループ会社

### ■製造

- ・株式会社エフピコ北海道
- ・株式会社エフピコ仙台
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・株式会社エフピコエンジニアリング
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社茨城ビジョンリサイクル
- ・株式会社ノダヤ
- ・テイカ精密株式会社
- ・エフピコ日本パール株式会社

### ■物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・エクセル物流株式会社
- ・エフピコピッキング株式会社
- ・エフピコ中部物流株式会社
- ・エフピコ関東ピッキング株式会社
- ・エフピコ九州物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック

### ■商社

- ・エフピコ商事株式会社

### ■販売

- ・エフピコチューバ株式会社

### ■小売り

- ・株式会社エフピコモダンバック

### ■その他

- ・株式会社クックラボ

# 製品紹介：日本の食文化を支えているエフピコ製品

惣菜容器、弁当容器、小分け販売容器、汁物商品容器など、エフピコ製品は多岐に亘り、様々な食のシーンで消費者の皆さまのお役に立っています。



## 精肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。



## 鮮魚

鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた切り身などには透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目を果たしています。



## 惣菜

蓋付の惣菜容器は利便性が高く、広く活用されています。近年では個食用として少量で販売するための容器も需要が高まり、食べ残しにならないという意味でも社会のニーズにマッチしています。



## 弁当

様々な素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えている他、見た目の楽しさも演出しています。



## 野菜等生鮮品

主に野菜など採り立ての瑞々しさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



## 寿司

一人から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。



## オードブル

パーティーなど“ハレの日”用の食材を盛り合わせるために開発した容器です。大きさや形も様々で、用途によって使い分けていただけるようになっています。



## 菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。



## 電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染み深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。



## 汁物

販売店での需要を受けて開発した水漏れのしにくい容器。蓋をスクリューにするなどにより水分の多い商品に対応できる工夫がしてあります。

# 対談：「食品流通の未来と環境保全」

食品の安全安心、食糧自給率の向上、産地直送、環境保全などの問題に取り組みながら、組合員の方々との絆を深めている「みやぎ生活協同組合」の齋藤理事長をお迎えし、これからの食品流通がどのような方向に向かっていくかを探ってみました。

みやぎ生活協同組合 理事長  
齋藤 昭子 氏

代表取締役社長  
兼最高執行責任者  
佐藤 守正

## 食品容器を使う上で必須となるリサイクル活動

**齋藤理事長：**先日、リサイクル工場を見せていただきました。実際に回収されたトレーが選別され、洗浄、粉碎、そして溶かされるという再資源化の一連の工程の現場を拝見して、大変参考になりました。ありがとうございました。

**佐藤社長：**こちらこそ、足をお運びいただきまして、ありがとうございました。

**理事長：**見ていて思いましたけど、異物っていうんでしょうか、不適切なものも混入してましたけれども、トレーはきれいに洗われていましたね。消費者の方々の意識も高いなあと思いました。



**佐藤：**なぜ日本で容器のリサイクルが出来たのかと言いますと、消費者の方々のご協力があったからなんですね。ところで、容器のリサイクルでは多くの方々の協力が必要なわけですが、みやぎ生協さんの場合、お客様の理解はいかがですか？

**理事長：**資源回収についてはずいぶんと啓発に力を注ぎましたので、皆さん、容器は洗って乾かしてから出してください。意識は高いと思います。洗うことで水を使うわけですから、環境負荷を増大させてしまうのではという疑問もありましたけれども、日常に食器を洗う残り水ですので、消費者の皆さんにご理解いただけるようお伝えしました。

**佐藤：**一昨年、ある自治体でのパネルディスカッションに参加した時、その自治体が区ごとに実施したトレー洗浄の実験の話が出ました。結果としてトレーを洗うことでの水の使用量は全く変わらないとのことでした。回収率を上げるために消費者の方々のご理解を得る方法はいかがですか？

**理事長：**回収率を上げるうえで一番大事なものは、協力いただいている回収という行為がどのような結果に繋がっているかをお知らせすることです。そこが理解されなければ行動が持続しないんです。容器の場合は削減、再使用、再資源化という順序で取り組んでいます。

## 食品流通の一端にある、障がい者の活躍する場

**理事長：**そう言えばリサイクル工場でたくさんの障がい者の方々も働いていらっしゃいましたね。



**佐藤：**いわゆる3Rですね。リデュースについては、便利で食生活を豊かにする容器を使っただきながら削減するための軽量化とコンパクト化を進めています。代表的な汎用トレーは90年比3割も軽くなっていますが、容器全体を見てもこの6年間で約15%の軽量化と約20%のコンパクト化を実現し、その分、原料と配送トラック台数の削減を実現しています。容器回収ではみやぎ生協さんにもご協力をいただいています。リサイクルはエコトレーという再生トレーを約20年間製造していますが、今後は透明容器についても本格的にリサイクルしていきます。

**佐藤：**障がい者の雇用そのものは20年ほど前に、成形工場の現場でスタートさせました。理事長にご覧いただいたのは透明容器の選別工程で働く障がい者スタッフですね。透明容器には様々な素材があり、種類ごとに選別しないとリサイクルできません。その素材を分ける技術はあるのですが、そのためには一列に並べないといけないんです。

**理事長：**そうそう、なんだか優れた機械があって、6つくらいに素材が選別されていました。でもその機械が十分稼働するためには、その前の一列の整列が大事なんだと説明を受けました。

**佐藤：**どうしても人の手が必要なんです。障がい者スタッフはこういう場でものすごい集中力を発揮してくれるし、責任感も強い。容器のリサイクル現場で障がい者の方々のご雇用も創出できるわけですね。

## 食品容器と日本の食文化・消費者動向

**佐藤**：話は変わりますが、エフピコとしては食品容器の有用性を自負していますが、こんな容器があればいい、ということはありませんか？

**理事長**：少子化や個食化という流れで、少量パックの品揃えが増えていることは、私どもの店を見ていただいてもわかると思います。生協として食文化を大事にして欲しいという点で、できるだけ容器から移し変えて食事をする、という考えを持っています。日本には美しくて料理を美味しそうに演出する器がたくさんありますから。

**佐藤**：まさに和食器にはものすごいバリエーションがあって、盛り付けで美味しさを演出しています。エフピコが作る食品容器もお客様のニーズから生まれたもので、日本の食文化の流れを汲んだ結果と言えます。世界広しと言えどもそこを訴求するのは日本のみです。また、見た目の役割以上に鮮度を保持するという機能もあります。例えば、牛肉を桐の箱に入れるのは、鮮度保持のためなんですね。そうした文化を継承しつつ、出来る限り無駄の少ない方法を探っていきたい。

**理事長**：宅配も店舗供給も同じなんですが、消費者の意識は簡素化に向かっていると思います。それと、コスト意識も高いです。きれいな容器を見ると、きっと高いのかなと思うのではないのでしょうか。袋などと比較すると実際のところどうなんですか？



**佐藤**：トレーより袋の方が安いんじゃないかと思われる場合がよくありますが、実はほとんど変わりません。それ以外の要素として、販売する上での作業性も含めたトータルコストになると、間違いなく今はトレーの方が経済的だと思います。

**理事長**：別の意味でのコストについても消費者の皆さんは気にしていますね。家庭用一般ゴミが有料化の方向で進んでいて、消費者に負担を強いることになるので、お店で買ったものをその場で容器から出していく人もいます。家に持っていきたくないんですね。宅配の場合は商品をご自宅まで運びますので、鮮度なり形状なりを維持する程度の包装は必要ですけども、包装の姿を基準に買うというわけではありませんので。

**佐藤**：ノートレー運動で、売り場を袋だけで済ませようとする現場を見たことがありますし、私も実際にスーパーの店頭で何日間お手伝いしたことがあります。お肉などは、皆さん手に





## みやぎ生活協同組合 理事長 齋藤 昭子氏

1970年、旧宮城県民生活協同組合入協。  
1973年、旧宮城県民生活協同組合理事 就任。  
1982年、合併によりみやぎ生活協同組合理事就任。  
1994年、宮城県生活協同組合連合会専務理事 就任。  
2003年、みやぎ生活協同組合副理事長 就任。  
2009年6月、みやぎ生活協同組合理事長及び宮城県生活協同組合連合会会長理事 就任。

他に、(財)日本ユニセフ協会宮城県支部副会長、(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)副理事長、NPO法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ副理事長を務める。

とって品物確かめるんですね。なので袋に入れて陳列すると、かなり劣化していくんです。

**理事長**：あるかもしれませんね。

## 持続可能な社会の発展に向けて

**理事長**：「協同の力で人間らしい暮らしを創造し平和で持続可能な社会を実現します」というのがみやぎ生協の理念なんです。キーワードが2つあります。「環境保全・自然との調和」というのがひとつ、もうひとつが「健康・安全・安心、そしてより安く」です。環境への取り組みなくして社会の発展もないわけですから、持続可能な社会の実現に対して社会的な責任があると思っています。

**佐藤**：CO<sub>2</sub>の25%削減という大きな目標を達成しなければなりません。

**理事長**：みやぎ生協では1998年にISO14001の認証を取得し、その時から温暖化防止の取り組みについて考えていました。最近は法律に従って自主行動計画を出し、省エネなど様々な取り組みをしています。特徴的なのは、うちには60数万人の組合員がいるんですけれども、家庭での省エネチャレンジという運動を呼びかけているんです。小さな一歩でもみんなが取り組むことが大事だと思っています。事業的には、エネルギー転換ですね。ヨーロッパの生協では再生エネルギーを使っています。

**佐藤**：みやぎ生協さんで扱っていただくエフピコ製品も、上流部分では省資源化製品でCO<sub>2</sub>を削減し、下流部分では回収してリサイクルすることでCO<sub>2</sub>の削減に繋がります。

**理事長**：見学の時にお聞きしましたら、30%くらい回収されるということでしたけど…。

**佐藤**：発泡トレーの回収率は30%ですが、その分CO<sub>2</sub>の削減に貢献していますね。昨年から本格的に開始した透明容器の回収も軌道にのってききましたので、透明容器の約50%を占めるPETに関しては今年の秋ごろに新しいリサイクルプラントを導入して本格的なリサイクルをスタートさせたいと思っています。トレーと透明容器の回収率を更に上げるため、組合員の皆さんの協力を是非ともお願いします。

**理事長**：エフピコさんだけの努力ではなく、業界全体として、また自治体とか法的な枠組みなども含めた社会全体として取り組む必要がありますよね。

**佐藤**：そうですね。弊社としても、大きな目標に向かってチャレンジし続けていくつもりです。





Management

# 経営における取り組み

すべてのステークホルダーに信頼していただける企業であるための内部体制の整備についてご説明します。

エフピコの経営における取り組みは会社組織を統治する「コーポレートガバナンス」、法令等を遵守して社会的な責任を果たすための「コンプライアンス」、そして起こり得る様々なリスクに対応するための「リスク管理」の3本柱が核となっています。

経営陣と全従業員の力を合わせたトータルな力が、エフピコの経営力の基となっています。

新宿副都心に構えた東京本社の執務エリアも福山本社と同様に、そのほとんどをガラス張りにしています。透明性の高い公明正大な企業であるという意識を全従業員で共有するためです。



# コーポレートガバナンス

## エフピコのコーポレートガバナンス

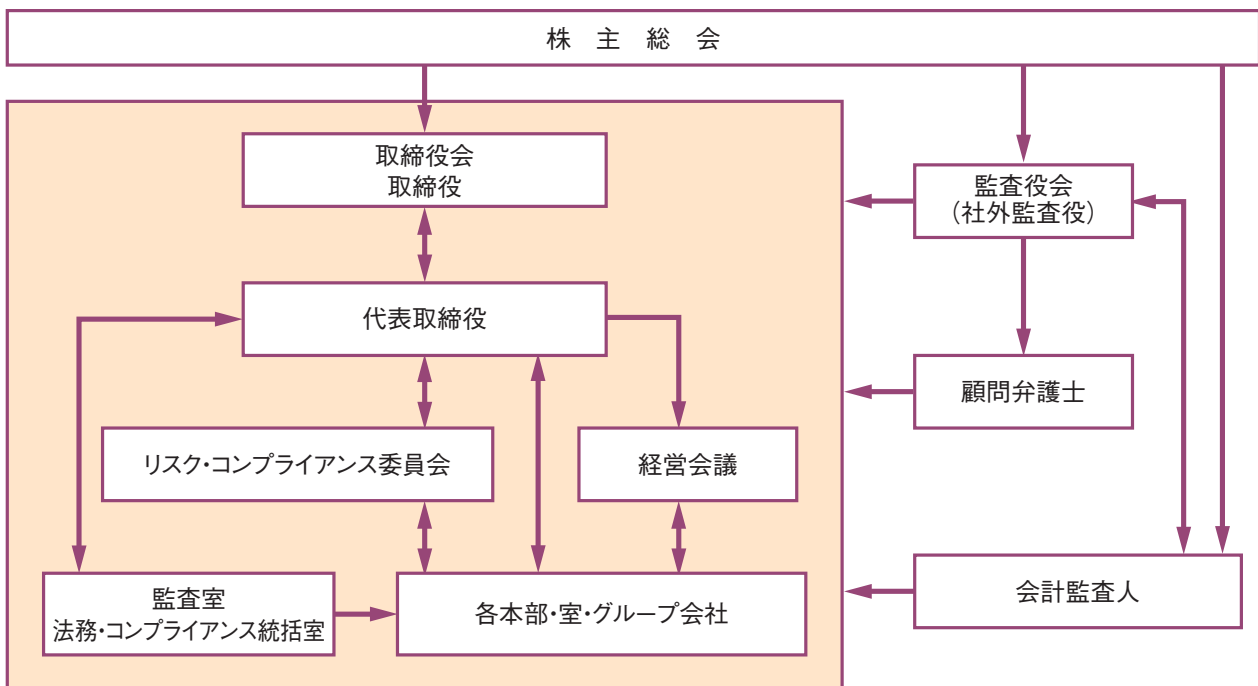
コーポレートガバナンスとは、経営者が社会、株主を含む様々な利害関係者に十分に配慮した企業経営を行っているかどうかを監視する仕組みです。エフピコではこの認識の下、経営戦略に関する意思決定の迅速化と経営の効率性を高めること、透明性を確保することをコーポレートガバナンスの基本的考え方としています。また、当社を取り巻く株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者より信頼を得て、永続的に良き企業市民となるため、企業活動の情報開示を積極的に行っています。

## 取締役会と監査役会

エフピコでは「取締役会制度」「監査役会制度」を採用しており、法令に基づき取締役会及び監査役会を設置しています。取締役会については、経営の透明性を確保するため、毎月、定例取締役会を開催しているほか、必要に応じて臨時の取締役会を開催することで、意思決定の迅速化を図っています。また、そのほかにも経営会議等を開催することで、経営上の課題について、さまざまな角度から十分に議論できる体制をとっています。

監査役会については、常勤監査役4名で構成されていますが、そのうち2名は、監査の公平性を高めるための社外監査役です。監査役は取締役会や、その他の重要会議に出席し、経営についてのモニタリングに携わっています。監査役は、監査上の重要事項について説明を求め、会計監査人と定期的な会合を持っています。また、監査役は内部の監査部門と定期的な会合を持ち、緊密な連携を保ちながら適切な監査を実施するよう努めています。

## コーポレートガバナンス体制図



# コンプライアンス

## コンプライアンスの浸透に向けて

社長直轄の法務・コンプライアンス統括室が、企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、「エフピコ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」及び「行動羅針盤」等を用いて健全な企業風土の醸成とともに、業務関連法令や企業倫理を含めた社内規定の遵守の指導徹底に取り組んでいます。

### 行動羅針盤

あなたの行為は、法令に違反しませんか

あなたの行為は、会社の方針に背きませんか

あなたの行為は、世間の常識に反しませんか

あなたの行為は、あなたの良心に背きませんか

あなたの行為は、エフピコブランドを傷つけていませんか

エフピコ グループ



従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、エフピコの従業員として責任ある言動を心がけることができるよう、行動のための指針である「行動羅針盤」を定め、社内に周知徹底しています。



新入社員の研修風景。オフィスでの研修のほか、工場、物流、販売、リサイクルなどの様々な現場も見学します。

## エフピコ行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり、問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえで、厳正な処分を行う。



福山市箕沖町の福山工場、福山リサイクル工場、福山配送センター、福山ピッキングセンターの約18万㎡にも及ぶ敷地は海に面しているため、高波や津波の対策として高さ約2mの壁を3方に設置しています。

## リスク管理

### リスク管理の強化に向けて

コンプライアンス、自然災害、安全衛生等、部門をまたがる全体的またはグループとしての対応を必要とするリスクについては、リスク・コンプライアンス委員会が対応します。

万一、不測の事態が発生した場合は、リスク・コンプライアンス委員会委員長が緊急対策本部を設置して、危機的事態の早期終結および再発防止策の検討・実施を行います。

#### リスク管理に向けた主な取り組み

- ① 緊急連絡体制の整備
  - ・ 緊急通報システムの導入
  - ・ 災害時用ハンドブックの配布
- ② 新型インフルエンザへの対応
  - ・ 新型インフルエンザ対策マニュアルの作成と配布
  - ・ 全社挙げての適時適切な行動

# [ 災害時用 ハンドブック ]

安全第一  
無理な行動は絶対しないこと

※本カード掲載内容には個人情報が含まれますので各人の責任において取扱いには充分ご注意ください。

※本カードを拾得された場合または、所有者の安否に係わる事態に遭遇された場合は、記載の連絡先へご一報頂くようご協力願います。

株式会社 エフピコ

本 社 084-953-1145  
東京本社 03-5320-0717

この「災害時用ハンドブック」は、災害時に迅速且つ適切な対応ができるよう、全従業員が携帯しています。

# エコバリューチェーンの構築

## ～環境負荷低減に向けた全社的な取り組み～

全社的な環境負荷の低減には、部署単位での活動だけでなく、複数の部署が有機的に連動して業務の透明化、効率化、そして環境に配慮した施策の推進を行う必要があります。部署同士が連動してひとつの目標達成を目指すことにより、単独の部署では成し得なかったことも可能になるからです。

単独の部署だけでは生み出すことが出来なかった創造性と可能性という種を育て、「バリューチェーン」（価値を生み出す企業内機能の連鎖）という強力なツールを作り上げることで環境負荷の低減という目標の達成を目指します。

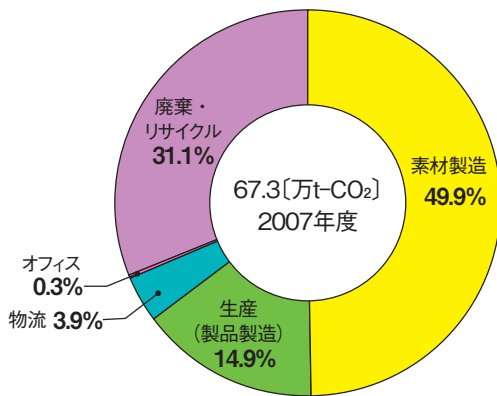
CO<sub>2</sub> 25%削減という大きな成果を達成するために、エフピコでは全社的な「エコバリューチェーン」の構築を目指しています。

25ページ以降の「環境における取り組み」の中で報告している様々な施策やCO<sub>2</sub>削減の効果にも、部署間をまたがった協力や情報共有の成果として可能になったものがあります。このセクションでは、エコバリューチェーンの組織化に向けた活動から成果が生まれた様子を、当事者の視点から語っていただきました。複数の関係者のアイデアがひとつの成果を生み出す舞台裏が窺えます。

定期的に行っているリーダーミーティングのメンバーに加え、関係部署のスタッフも出席したエコバリューチェーン構築に向けた会議の風景。福山と東京の両本社をテレビ会議システムで繋ぎ、様々な意見の交換を行いました。



## 上下流<sup>※1</sup>を含むエフピコグループによる2007年度<sup>※2</sup>のCO<sub>2</sub>排出量



エフピコは食品容器を製造する上での素材製造から使用済み製品の廃棄に至るまでの上下流を含めると、グループ全体で年間約67.3万トンのCO<sub>2</sub>を排出しています。どのようなシーンでCO<sub>2</sub>が排出されているかを見るため、左のような5つの領域を設定しています。CO<sub>2</sub>排出という側面から見た素材製造、生産（製品製造）、オフィス、物流、廃棄・リサイクルの5つの領域ですが、その対策にはグループ内の部門の垣根を越えた協力が必要です。

※1 上流は製品の原材料調達の領域。下流は製品の廃棄・リサイクルの領域。

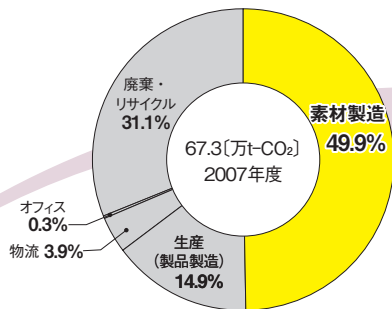
※2 2008年度以降は新基準によるデータの評価中。

# ECOバリエーション



# エコバリューチェーンの構築

～環境負荷低減に向けた全社的な取り組み～



素材製造における環境負荷低減を担当するのは、主に原材料の仕入れに携わる製品開発部門であり、製品のライフサイクル評価も担当しています。ライフサイクル評価を行った結果、思わぬところでCO<sub>2</sub>の削りシロを見つけることができました。



製品を梱包するための段ボール。

ECOバリ

## ライフサイクル環境負荷の「見える化」を行い、物流部門と生産管理部門の協同でできた ケース (段ボール) サイズと材質の改善



関連記事

製品開発における取り組み P. 27

エフピコの製品は約5千種類ありますが、製造後にそれらを梱包するためのケース (段ボール箱) もほぼ同じ種類あります。製品の形態やサイズに合う寸法でケースを作らないと、様々な面で無駄が生じるからです。しかし、製品に合わせて作るケースのサイズが配送する際に都合が良いとは限りません。トラックの荷台のサイズに合わなければ、必要のない隙間ができてしまい、輸送において無駄が生じるのです。きめ細やかなサイズ調整により、段ボールの原料である紙の使用量も減り、倉庫での保管効率も上がったのです。ほんの数センチの変更でも、やってみようという気持ちと、その気持ちを後押ししてくれる協力があれば、大きな成果を生むことができます。



製品開発部  
檀上 和典



エフピコ物流(株)  
内藤 康博



品質管理部  
坂本 浩治



笠岡第一工場  
浅野 貫司



情報システム部  
情報推進課  
宮 智子

「ライフサイクル評価の対象としては、製品の原料だけでなく、完成した製品を梱包するための段ボールなども含まれます。物流部門から話が来て改めて考えると、段ボールにも削りシロがあったわけです」(檀上)

「この件はわれわれ物流の側から生産部門に話を持ちかけてみました。もう少しだけケースサイズを変えれば、もっと効率良く製品を運べるはずだと。ひとつのケースの縦、横、高さが数センチずつ短くなれば、1列分多く積めると思っていたわけです。ただ、製品を効率良く梱包する方が優先されるでしょうから、サイズの変更に現実味があるかどうかは分かりませんでした」(内藤)

「物流の現場からの話を聞いて、やってみる価値のある試みだと思いました。結局、約2センチのサイズ変更をしたのですが、それによって製品がケースの中でずれたり、潰れたりしないよ

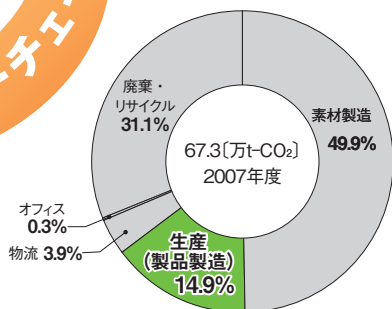
うに工夫しました。ケースの材質も見直しました。ほんの少しの変更ですが、エフピコ全体で見ればかなり大きな成果になりました」(坂本)

「ケースのサイズを指定して発注するのは製品部門の仕事ですが、ケースを運ぶ物流の現場からの視点というのは、それまでまったく欠けていました。なるほどなと思いました。」(浅野)

「製品の種類が多いので、ケースサイズの変更は結構大変なんです。全てを見直したわけではありません。言い換えると、まだ削りシロはあるということ。努力を続けていきます」(坂本)

「ライフサイクル評価を行うための基礎データは情報システム部でも共有していますが、それを活かす方法まで考えることが重要ですね。今後は役立つことを考えていきたいと思っています」(宮)

ユーティリティ



容器を製造する各工場でのCO2削減への取り組みは継続的に実施しており、削りシロもどんどん少なくなっています。その意味でも製造品目の定期的な見直しは、重要な施策のひとつなのです。



古い種類にとって代わり今期新たに製品化されたスクリューキャップ式の蓋を持つ透明容器。

生産部門による工場での効率化が発端となり、販売部門の協力を得て実施している

### 製品種類の整理プロジェクト



関連記事

工場における取り組み P. 29

エフピコが製造している容器やトレーは消費者の方々のニーズに基づいて作られます。「こんな容器があれば便利」という声を拾い集め、その利便性を具体的に容器やトレーという形で作り上げます。食生活におけるニーズはどんどん増えていきますので、製品の種類は増える一方となります。容器の種類が増えればそれに伴って、製造工程で必要となる金型など様々な付帯設備が増えていき、梱包用の段ボールの種類や運搬ルートも増えていきます。一方で必要性が小さくなくなったために、製造量が減少していく容器もあります。こうした容器の種類の増減バランスを適切に保ち、製造や物流におけるCO2の排出を削減するためにも、エフピコでは常に製品の種類を定期的に見直しています。



笠岡第二工場  
渡辺 英雄



設備部  
塚本 昭和



生産企画部  
永田 幹治



九州営業部  
南九州営業課  
後谷 直秀



環境対策室  
井上 達弘

「製造の現場に携わる者としては製品の種類が少なければ少ないほど助かります。効率的な生産ができますし、CO2の削減にも繋がりますから。ただ、お客様からの需要もありますし、そう簡単に種類を減らすわけにはいきません」(渡辺)

「工場におけるCO2削減を考えた時、われわれが物理的にできることにはかなりの制約があります。使用するユーティリティー(動力、光熱、空気などのエネルギー)の効率化を継続して行ったり、廃棄物を減らす方法を考えたり。その意味でも製品の種類を減らすことは、とても有意義なことなんです」(塚本)

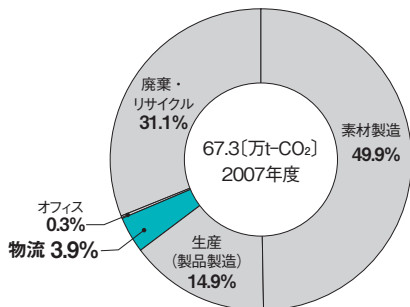
「製品の種類を定期的に見直して、可能な限り数を減らそうというのは、様々な部署が感じていることです。だからこそ、このプロジェクトは継続して行っているんです。常に5千種類程度に留めておくのが理想ですね。生産の効率化にもなるし、様々な派生効果があります」(永田)

「製品の種類を減らすというのは、言葉で言うほど簡単ではありません。人気なくなった製品と言えども、どこかで誰かに必要とされているわけですから。生産部門の意見を聞き、それをお客様に伝えて販売の状況を確認しながら、ひとつずつ慎重に検討していきます。生産効率化がテーマのプロジェクトですが、私たち販売部門の役割は決して小さくないです」(後谷)

「これは部署間の連携で展開するエコバリューチェーンの良い例だと思うのですが、理想的には製品の種類を集約することが、お客様にとってもプラスになれば良いと思います。実際そうなったという例も聞いています。社内だけではなく、エフピコの全てのステークホルダーにエコバリューチェーンの輪が広がっていけば良いと考えます」(井上)

# エコバリューチェーンの構築

～環境負荷低減に向けた全社的な取り組み～



物流部門で排出するCO<sub>2</sub>は、そのほとんどが製品を運ぶトラックに起因しています。なるべく少ない台数で、短い距離を、効率良く運びたい。そうした物流部門の思いが、他の部署の協力によって解決されることもあります。



今期導入された圧縮機によって纏められ、一度にたくさん輸送できるようになった選別後の透明容器。

ECOバリ

## 物流部門と販売部門の情報交換により可能となった

### トレー回収便の集約

#### 関連記事

物流における取り組み P. 31

販売活動における取り組み P. 35

ここでの例は、使用済みトレーを回収するトラック便を集約する話ですから、物流部門が活躍したプロジェクトのように聞こえます。しかし実際に最も大事な仕事を任されたのは営業部門のスタッフでした。なぜならば回収便のスケジュールはエフピコ側の都合だけで決められるものではなく、店舗などに溜まっていく使用済みトレーの回収を待ちわびている問屋やスーパーなどのお客様の都合を考慮する必要があるからです。こうしたお客様との交渉役は普段からコミュニケーションを取っている営業スタッフでなければなりません。お客様の都合を考慮しつつ、回収便の配車をより効率化するプロジェクトが行われました。



エフピコ物流(株)  
木曾 一之



東京営業第5部  
江馬 弘城



エフピコ物流(株)  
福山HC  
寺田 聖



中四国営業部  
三谷 真弘



環境対策室  
松尾 和則

「言い出したのはわれわれ物流の側です。CO<sub>2</sub>削減のために回収便をもっと効率的に活用したかったのがその理由です。理想のルート営業部門に提示し、それを基準としてお客様に交渉を行っていただきました。それまで週に6日回収していたところを5日にさせていただき、回収便の到着時刻を少し遅らせていただくなどですね。ただ、こちらの都合だけで勝手に配車計画を行うことはできません。そこで営業スタッフをお願いしたわけです」(木曾)

「物流部門が言っている理屈はもちろん理解できました。でもそれは多少なりともお客様に迷惑が掛かるかもしれない。それでも、CO<sub>2</sub>の削減と物流の効率化という2つの大きな目標のため、お客様に交渉する役目を果たしました。理想のルート計画に近づけるため、お客様との間で何度もキャッチボールを行いました。その小さな交渉が積み重なった結果、回収便が大

きく効率化されてCO<sub>2</sub>の削減にも繋がりました。やりがいのあるプロジェクトでしたね」(江馬)

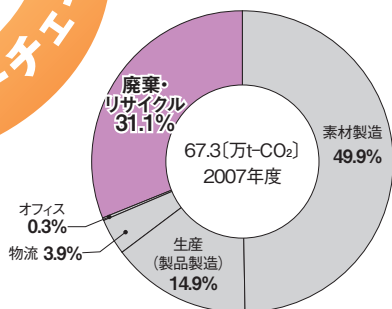
「配送センターで働く者としても、大変に助かる結果となりました。複数の地点で少しずつ回収時間が変わることにより、理想に近いルートに変えることが可能になります。営業部門の方々には感謝しています」(寺田)

「まだ改善の余地があるとも考えています。しばらくは物流部門に新しいルートで様子を見ていただき、もっと工夫できることがあれば、また力になりたいと思います」(三谷)

「エフピコのサプライチェーンマネジメント(SCM)は高いレベルにあると自負していますが、そのシステムをさらに活かすのは人と人とのコミュニケーションにありました。このプロジェクトの成功は、大変意義のあるものでした」(松尾)



エフピコ



素材製造の領域に次いでCO<sub>2</sub>の排出量が多いのは、製品の下流となる廃棄です。廃棄する使用済み製品を回収すればするほど、このエリアのCO<sub>2</sub>は削減できます。使用済み製品のリサイクルは、エフピコという企業を超えて社会全体に広げなければなりません。



容器リサイクルの現場では、たくさんの障がい者が働いています。

## 部署を超えて全社を挙げての啓発活動により目指している

### 容器リサイクル活動のさらなる発展

使用済み製品のリサイクルは20年続けていますが、その現状を詳しく知らない従業員もいます。また、リサイクルと障がい者雇用の結び付きについても、その詳細を知る従業員は決して多くありません。容器リサイクル活動をさらに推し進め、「エフピコによる容器リサイクル」から「社会全体による容器リサイクル」へと発展させていくためにも、部署の垣根を越えた情報の共有と協働が必要です。そのためにマネージャー以上の管理職を対象とした研修を増やし、情報共有の徹底もしています。グループ内のコミュニケーションを活性化することで、容器リサイクルのさらなる発展に繋げていきます。

#### 関連記事

エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」 P. 38

オフィスにおける取り組み P. 33

障がい者の雇用 P. 53



経営企画室  
大宮 功士



リサイクル部  
リサイクル管理課  
平河 良史



エフピコ愛パック(株)  
林原 俊介



人事部 人事課  
豊原 美紗



環境対策室  
馬屋原 慧准

「エフピコのリサイクル活動はマスメディアなどにも随分とたくさん採り上げられていますし、日本全国の自治体の方々もたくさんリサイクル工場の見学にお越しいただいているのですが、まだまだ認知度が十分とは言えません。使用済み容器の回収率にもそれが表れています。だからもっと容器リサイクルの実情と成果を訴えて、社会全体の協力を仰がなければなりません」(大宮)

「エフピコのリサイクル工場はこの数年で随分と進化しました。新しい機械やシステムを導入してどんどんと効率化しています。障がい者が活躍する選別センターも増えています。回収率が上がっても対応していきます」(平河)

「エフピコは障がい者雇用においてもかなり進んでいると思います。でも、そうした状況を良く知らない従業員も決して少なくありません。障がい者雇用はエフピコにとってプラスになる

ことばかりです。エフピコで働く障がい者スタッフのことも、もっと知って欲しいと思いますね」(林原)

「社内のことを知るという意味では、お互いが顔の見える環境での研修はとても重要だと思います。また、全従業員を対象としている「学Navi」も積極的に利用して欲しいと思います。ウェブによる情報提供なので一方通行になりがちですけど、保存して後で見ることでもできます。もっと活用してもらう方法を考えないといけませんね。リサイクル活動や障がい者雇用についても社外に誇れる内容ですし、もったいない気さえします」(豊原)

「エフピコが行っている環境対策活動を説明するために、営業スタッフと一緒にお客様を訪問することがあります。リサイクルに対するお客様の理解が得られれば、回収率も上がるでしょう。もっと私たちの部署を利用して欲しいですね」(馬屋原)



Environment

# 環境における取り組み



簡易食品容器を製造・販売する企業として地球環境保全のために実践していることをご説明します。

1990年に使用済みトレイの回収とリサイクルを本格的にスタートさせてから20年が経ちました。食品容器のリサイクルにおいて業界をリードしてきた自負はありますが、持続的発展が可能な社会を目指す地球環境保全活動にこれで十分ということはありません。この20年の間に培ってきた経験を糧に、次の20年へと続く環境への取り組みに邁進してまいります。

ハイブリッド車に加えて  
今期導入した電気自動車。  
エコトレイのPRも兼ねています。



## 環境方針

### 基本理念

当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

### 方針

- CO<sub>2</sub>削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 環境側面に関して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。

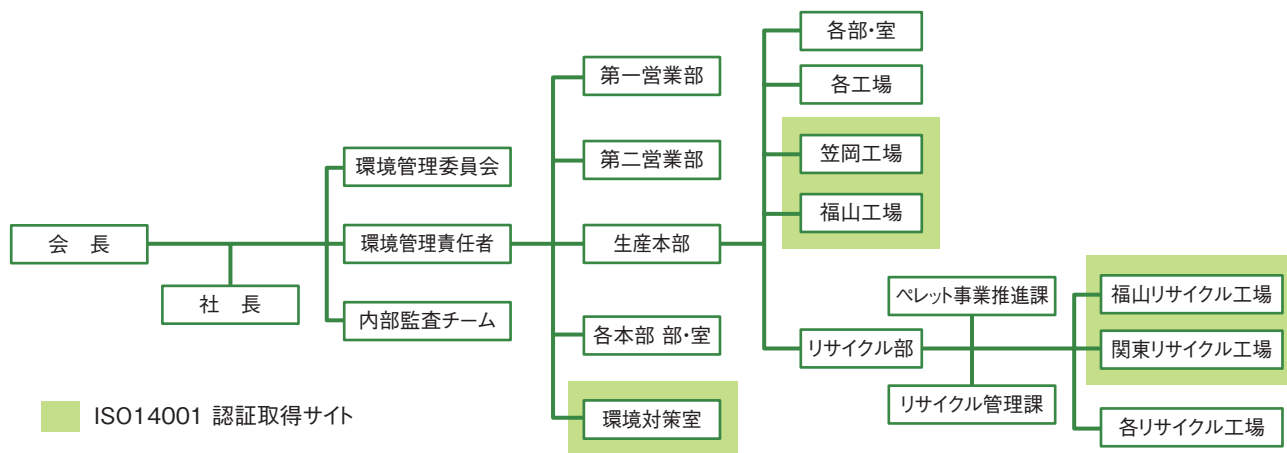
株式会社エフピコ 代表取締役会長

小松安弘

2009年12月21日

## 環境マネジメント体制

エフピコは、環境負荷低減への取り組みに全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて全社的な活動を続けています。



## 容器包装3R推進環境大臣賞

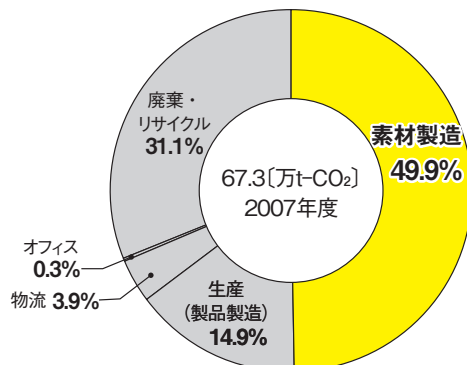
リデュース(省資源)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の、いわゆる「3R」を推進するために、環境省が平成18年に創設した表彰制度「容器包装3R推進環境大臣賞」の第1回選考において、エフピコは製品部門の最優秀賞に選ばれています。エコトレーの製造において消費者との連携を進めながら経済性とリサイクルを両立させたことが、評価されたものです。製品の軽量化と「トレー to トレー」方式によるエコトレーの製造は年々拡大しており、今期においては製造したトレーの約3割を回収・リサイクルしています。さらには透明容器の回収も

スタートし、この賞に恥じない企業として3R推進活動を続けています。



## 製品開発における取り組み

製品開発に関わる部署がCO<sub>2</sub>削減に貢献できる全体での割合は大きく、上下流も含めたCO<sub>2</sub>排出量のうち約半分が素材製造に起因しています。食品容器の素材製造に基づくCO<sub>2</sub>発生がその理由です。上流におけるCO<sub>2</sub>の発生ではあるものの、エフピコはその削減に積極的に取り組んでいます。それは大きく分類すると、素材の仕入れ先と協働して環境負荷の低減を行うこと、そして製品を軽量化して、使用する素材の絶対量を減らすことです。



素材製造における環境負荷低減を担当するのは、主に原材料の仕入れに携わる製品開発部門であり、製品のライフサイクル評価も担当しています。

## ライフサイクル環境負荷の「見える化」

環境負荷を計算するためには、エフピコが工場場で製品を製造するためのエネルギー量だけでなく、原料・シート・フィルム・段ボール・ポリ袋など、それぞれを製造する際のエネルギー量を細かく把握する必要があります。そのため、それぞれを納入する取引会社の方々に、環境負荷を計算するために必要なデータ収集の協力をお願いしました。取引先の中でも初めて取り組むというところも多く、ご理解頂くために何度もコミュニケーションをとりながら進めていきました。

計算過程では素材を決定する部署、生産工場を取りまとめる部署、生産機械を担当する部署、リサイクル関係の部署等、様々な部署と連携してライフサイクルアセスメントの考え方を理解し、計算に必要なデータ収集・集計を行なっていました。

環境負荷の「見える化」は重要なテーマであり、国内でもカーボンフットプリント制度が普及してきていることから、今後は、全

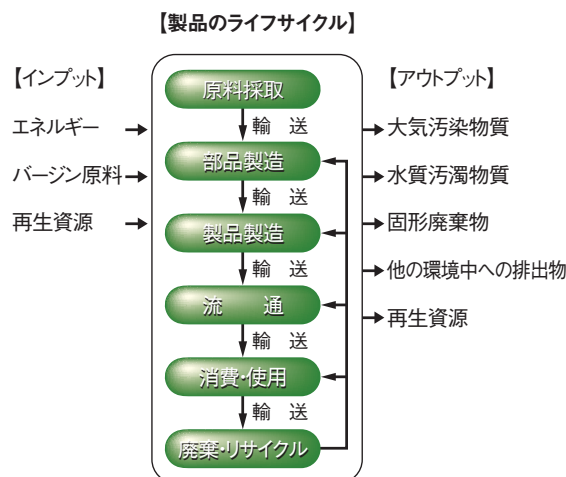
製品の計算過程のシステム化を図り、スピードをテーマとして更に進化させて行きます。また新製品開発時の環境負荷を「見える化」し、より環境負荷の小さい製品開発に努めてまいります。

### ライフサイクル評価とは

製品は、その原料採取から製造、廃棄に至るまでのライフサイクル(原料採取→製造→流通→使用→リサイクル・廃棄)の全ての段階において様々な環境への負荷(資源やエネルギーの消費、環境汚染物質や廃棄物の排出など)を発生させています。ライフサイクル評価(Life Cycle Assessment: LCA)とは、これらの環境への負荷をライフサイクル全体に亘って、科学的、定量的、客観的に評価する手法で、その活用により環境負荷の低減を図ることができます。(環境省ホームページより抜粋)



仕入れ先を招いてエフピコによるCO<sub>2</sub>削減の取り組み説明会を今期初めて実施しました。製品製造の上流部分におけるCO<sub>2</sub>の見える化に向けた施策のひとつです。





エフピコが製造する容器の種類は約5千にもおよびます。ひとつの製品で成功した事例は他の製品にも応用され、常に改善、改良が行われているのです。

## グリーン調達

グリーン調達とは地球環境保全への取り組みを目的に、安全で環境負荷の少ない原材料、部品、製品を積極的に調達することです。エフピコでは製造する製品が排出するCO<sub>2</sub>を削減するための調達ガイドラインを作成し、以下の考え方によるグリーン調達の実践を目指しています。

使用する全ての原材料のCO<sub>2</sub>の「見える化」を行う



CO<sub>2</sub>排出量が少ない原料を選定する

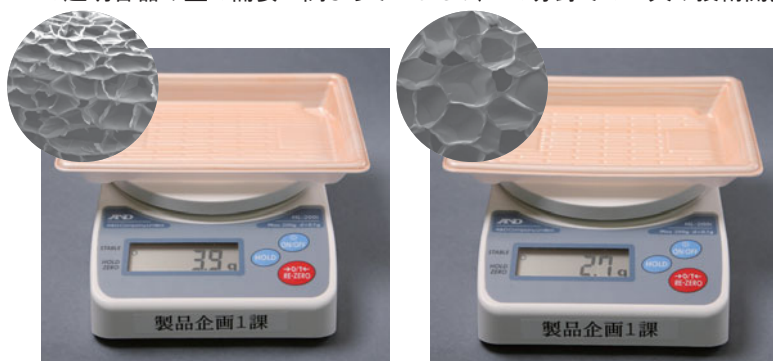


原料の調達先と協働したCO<sub>2</sub>の削減方法を考える

環境に配慮した原料メーカーからの優先購入やISO14001認証取得を条件とすることなどがガイドラインに含まれる予定です。製品製造の上流となる素材製造はCO<sub>2</sub>の排出が最も大きい部分であり、グリーン調達は今後の重点課題のひとつとなっています。

## 製品の軽量化

発泡倍率の高い素材や薄い素材を使うことによる製品の軽量化は、今年度も引き続き行っています。近年ではソリッド素材(非発泡)の透明容器や蓋の需要が高まっているため、この分野での工夫や技術開発は今後も重点的に進めてまいります。



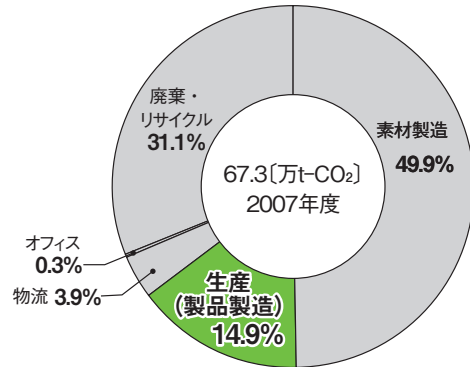
形状と容積は同じでも発泡倍率を高くすることにより、トレーを軽量化することができます。



どんぶりメニュー用の容器の蓋部分に施された波型の凹凸。薄い素材の使用を可能とするために、波型で強度を上げています。

# 工場における取り組み

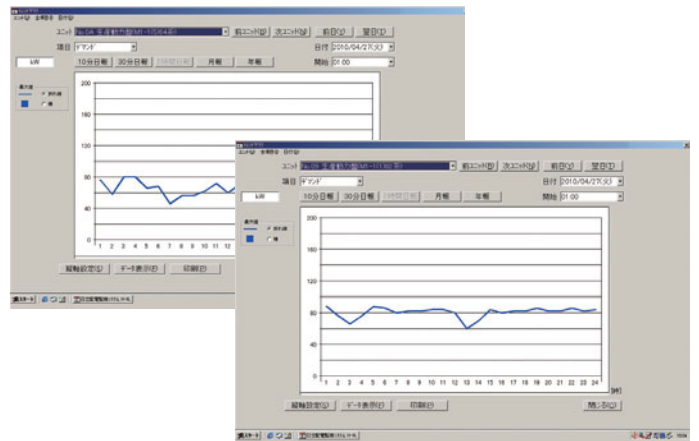
生産部門におけるCO<sub>2</sub>排出量は、全体の約15%になります。その多くは動力、光熱、水道、空気など工場のユーティリティのために使われる電気が発生源です。何年にも及ぶ効率化や省エネ運動の取り組みを経て、「これ以上の電力削減は困難」というレベルにまで到達していますが、様々なテクノロジーの進歩に伴って今まで不可能とされた省電力化も可能になってきています。また、無駄を省くための人的な努力も継続することが大切です。ミスはロスに繋がり、ロスは無駄なエネルギーの消費に繋がるからです。工場における機械と人の進歩は止まることがありません。



各生産工場でのCO<sub>2</sub>削減への取り組みでは、電力など製造のためのユーティリティを必要最低限にした後の削減は難しくなります。それでも取り組みが終わることはありません。

## 工場データの見える化

生産工場のユーティリティを無駄なく使用するための見える化は、継続して実施しています。右のグラフは異なるポイントでの動力の負荷を1時間単位で表示したのですが、10分単位や30分単位、また月ごとの数値でも確認しています。何時頃に一番たくさん動力が必要になるか、季節で見るとどうかなど、電力負荷変動の要因を分析することにより、様々な対策を講じることができるのです。

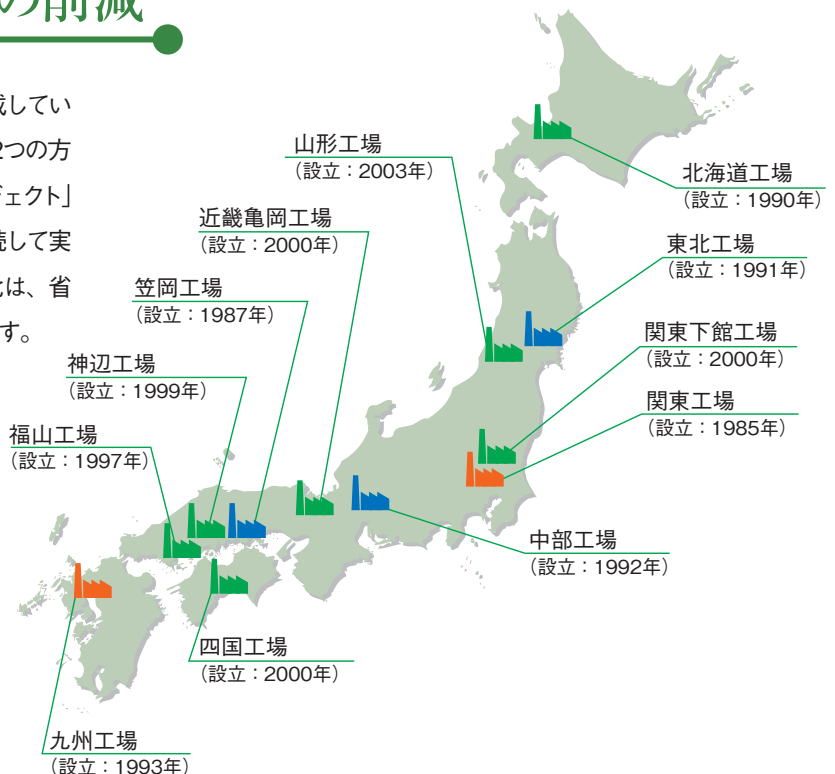


## 生産の効率化によるCO<sub>2</sub>の削減

見える化によって明らかになったCO<sub>2</sub>の削りシロを削減していく方法として、人による効率化と機械による効率化の2つの方向性があります。人による活動としては「CO<sub>2</sub>削減プロジェクト」や生産性向上を目指す「ものづくりプロジェクト」を継続して実施しています。設備を改善していく機械による効率化は、省エネ診断とそれに続く設備のリニューアルとなっています。

### ●全国の工場の省エネ診断とリニューアルスケジュール

工場	省エネ診断実施状況	リニューアル実施状況
北海道工場	2010年度実施予定	
東北工場	実施済み	実施年度未定
山形工場	2010年度実施予定	
関東下館工場	2010年度実施予定	
関東工場	実施済み	実施済み
中部工場	実施済み	実施年度未定
近畿亀岡工場	2010年度実施予定	
笠岡工場	実施済み	2010年度実施予定
神辺工場	2010年度実施予定	
福山工場	2010年度実施予定	
四国工場	2010年度実施予定	
九州工場	実施済み	実施済み





CO2削減のため屋上緑化をした中部工場

## ISO9001認証取得

お客さまや消費者の方々に安心してご使用いただける製品をお届けするために、品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を笠岡、関東下館、近畿亀岡の3工場で行っています。ISOの規格を業務に取り入れることで、工場内での責任・権限の明確化、業務の標準化、教育・訓練内容の充実、生産技術の向上、従業員のモチベーション向上といった効果が生まれています。こうした効果は安心できる製品の生産だけでなく、効率化による環境負荷低減にも役立っています。

## 生産活動におけるゼロエミッション

ゼロエミッションの取り組みとして、生産工場から排出される産業廃棄物の最終処分率1%未満達成を目標に取り組んでいます。毎年1回、全国生産工場やリサイクル工場から排出する産業廃棄物排出量を調査すると共に、適正処理をして頂く産業廃棄物処理業者と関係を密にして、処理方法や最終処分量(埋立)を把握する体制作りを実施しています。廃棄物・リサイクルガバナンス体制の高度化を目指し、更なるコスト削減活動と環境負荷低減を進めてまいります。

### 品質方針ならびに品質目標(笠岡工場)

#### ●品質方針

より良い製品で高い信頼、顧客のニーズを満たす製品を提供する。

本方針を維持・継続・実行する為に私達は下記の事項を確立します。

1. お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
2. 本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
3. 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
4. 市場の変容、当工場の改革等にあわせて本方針を定期的に見直し、適切性を持続すると共に、品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。
5. 本方針を全従業員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成16年9月15日 株式会社エフピコ 笠岡工場  
経営者 田井 秀明

#### ●2010年度品質目標

##### 工場品質目標

##### ①クレーム削減

【目標】PSP：20ppb / PS-2：10ppb / PS-7：15ppb / 押出：0ppb(社内クレーム：7件以内)

##### ②生産性向上

##### 部署品質目標

**PSP課** ①クレーム削減 2009年度実績 38ppb ⇒ 20ppb  
②稼働率アップ(設備稼働率) 83.16% ⇒ 83.45%

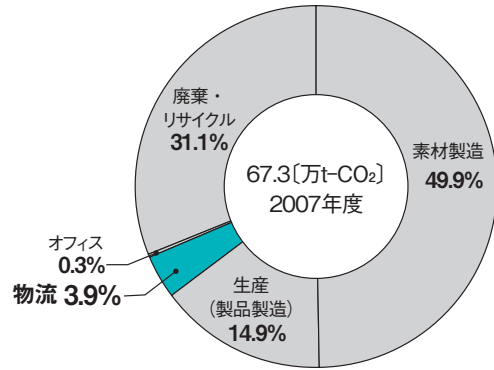
##### PS課

##### ①クレーム発生率削減

- ・PS-2：10ppb
  - ・PS-7即成：15ppb
  - ・PS-7押出：0ppb(社内クレーム7件)
- ②稼働率アップ(設備稼働率)
- ・PS-2：89.51%(昨対0.35% UP)
  - ・PS-7即成：89.44%(昨対0.56% UP)
  - ・PS-7押出：93.10%(昨対0.09% UP)

# 物流における取り組み

お客様へと製品を運ぶためにたくさんのトラックを走らせる物流部門における環境対策は、配送時のCO<sub>2</sub>の排出を抑えることです。そのためには最も効率の良い配車計画を立て、それを実行しなければなりません。自社グループの物流部門を持つエフピコでは配車計画の自由度が高く、単に製品の配送から割り出した配車のみならず、販売予測から立案した計画を立てることが可能なのです。また、配送を委託する場合の委託先に対しても、自社グループと同様のCO<sub>2</sub>排出管理を行っています。こうしたCO<sub>2</sub>排出管理のため、エフピコでは新しい管理システムを構築しました。

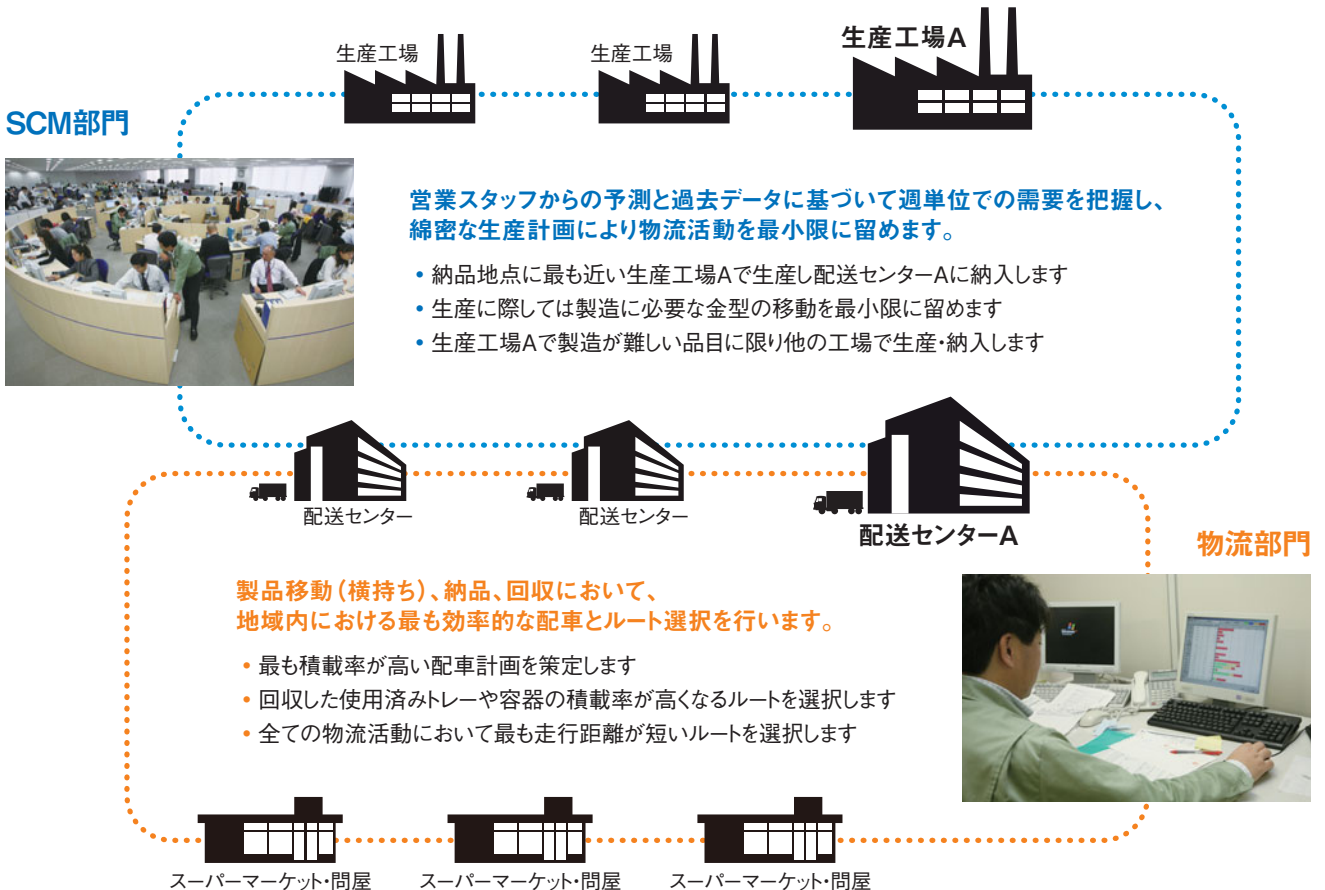


物流部門で排出するCO<sub>2</sub>は、そのほとんどが製品を運ぶトラックに起因しています。なるべく少ない台数で、短い距離を、効率良く運ぶことを目指しています。

## SCMを核とした効率的な物流システム

サプライチェーンマネジメント(SCM)システムにより、製造から納品に至るまでに発生する物流活動を最も効率的に、最も短い移動距離とすることを目指しています。

### 地域単位での物流システム例







約100メートルにおよぶ関東ハブセンターのコンベアのライン。反対側にも同様のラインがあり、配送車が集まる午後4時頃には、製品が詰まった段ボールが休み無く運ばれていきます。

## 委託先を含めた新しいCO<sub>2</sub>管理システムの構築

原材料調達からお客様のお手元に届くまで、一連の物流プロセス全体のCO<sub>2</sub>排出量の見える化を実施し、削減のシミュレーションに基づいたCO<sub>2</sub>の総量削減目標を設定しました。走行距離、積載重量、燃費などの数値を入力すれば自動計算するシステムの導入により、備車（外部に委託した配送車）も含めた全車両のCO<sub>2</sub>の排出量管理を行っています。



エフピコ物流のトラックバースに並ぶ備車

### トピックス

#### 西関東ピッキングセンター稼働開始

2009年5月25日、東京都町田市にアイ・ロジック西関東ピッキングセンターを開設しました。全国4番目の規模となる西関東PCは、神奈川県・東京都西部を中心とした西関東エリアにおける約600店舗のユーザー様に製品をお届けする拠点となります。店舗に密着した物流サービスの提供により、さらなるCO<sub>2</sub>の削減が見込まれます。



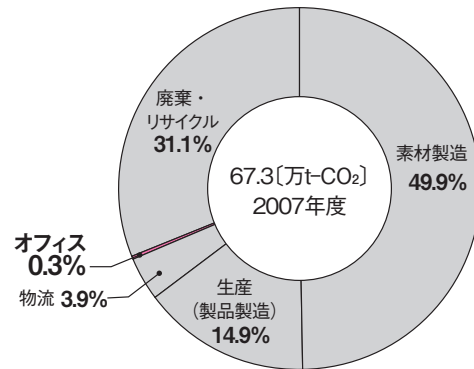
23台同時に接車できるトラックバース



新開発の高所用ピッキングカート

## オフィスにおける取り組み

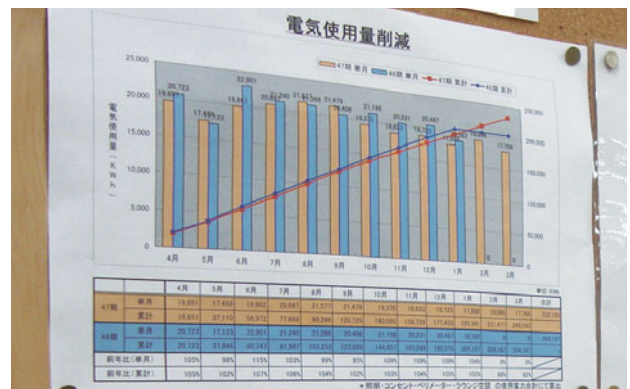
オフィスという物理的な場所だけに注目すれば、環境負荷を削減する活動は非常に限られています。グループ全体でのCO<sub>2</sub>排出量の割合を見ても分かる通り、全体の0.3%に過ぎません。しかし、オフィス部門が持つ組織の全体を見渡すという機能をフル活用すれば、その役割が担うべき範囲はとて大さくと言えます。様々な部門の環境対策を見守る役目をオフィス部門は果たしているのです。



オフィス部門でのCO<sub>2</sub>の排出量は全体の0.3%に過ぎません。関連部署に求められる役割は、全従業員の環境保全意識の啓発であり、それは環境活動の根幹ともなる部分です。

## 全事業所の環境負荷見える化の実施

全事業所において電気、紙、ゴミ(廃棄物)の3つの環境負荷の見える化を行っています。従業員各自がどれくらい環境負荷の責任を負っているかを理解するためであり、電気使用量は前年度同月との比で表示しています。今年度、全12事業所の平均では微減となっています。増えてしまった事業所では、その原因究明と対策を実施します。



## 学Naviの活用

従業員に対して様々な学習の機会と情報を提供しているイントラネット「学Navi」には、環境をテーマとしたビデオプレゼンテーションのメニューもあります。地球温暖化の現状、ライフサイクルアセスメントの概要、容器包装リサイクル法についてなど、エフピコの従業員として知っておくべき内容がいつでも簡単に取り出せるようになっています。



## テレビ会議の活用

テレビ会議システムを使った遠隔会議は、毎日のように行われています。会議出席者の出張による移動をなくすことで、CO<sub>2</sub>排出削減を果たしています。写真のような複数箇所を繋いでのテレビ会議を開催することで削減できる時間とCO<sub>2</sub>は計り知れません。今ではエフピコにとって欠かせない設備となりました。



## 低公害車の導入

エフピコでは様々な種類の低公害車の導入を継続的に進めています。今期は大幅に台数を増やした結果、電気自動車を含めエフピコが所有する低公害車は181台となり、全車両の約6割に達しています。走行中CO<sub>2</sub>排出ゼロの電気自動車は、今後徐々に増やしていく予定です。

内訳：電気自動車…1台

ハイブリッドカー…69台

低公害車…98台

軽自動車及び小型車…13台

## 社内トレイ回収

●トレイ 137,169枚

●透明容器 7,415枚

(2010年3月期)

社内トレイ回収活動は1992年にスタートし、今年度で18年目となります。使用済みトレイを社内常設の回収ボックスに持ち込むことによって、従業員一人ひとりの環境意識の向上にも繋がっています。昨年度スタートしたばかりの透明容器の回収量も今後大きく増やしていくよう、全従業員に呼びかけています。

東京本社を東京副都心新宿のオークタワーに移したのは2003年でした。以来、世界中の情報が集まる東京で環境対策に関する情報の収集を行っています。



## トピックス

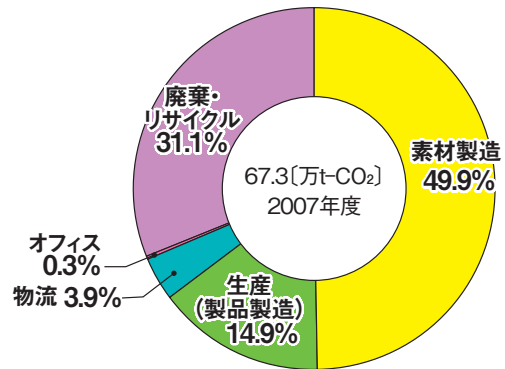
### 電気自動車の導入

2009年11月9日に電気自動車「アイミーブ」を本社に導入しました。走行距離は満充電で約100キロメートル。動力は100%電気ですので、走行中のCO<sub>2</sub>排出はゼロです。充電時間は200Vで約7時間で、当面は近郊の使用のみとなりますが、充電設備の社会インフラが整えば、長距離運転も可能になるでしょう。



# 販売活動における取り組み

販売活動に関わるエフピコの営業スタッフが担う環境保全の責任の範囲は非常に大きいものがあり、CO<sub>2</sub>の排出領域全体にわたっています。エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を実現させるためには、それまで家庭で廃棄されていた使用済みトレーや容器を回収しなければなりません。エコトレーの販売拡大と使用済みトレーの回収にはスーパーや問屋など流通に関わる方々の理解と協力が必要であり、そうした協力依頼を行っているのがエフピコの営業スタッフです。お客様との日頃のコミュニケーションにおいては、販売だけでなく回収にまで気を配っています。ひとつでも多くのトレーや容器を回収すること、それがエフピコの願いなのです。



販売活動における取り組みは、全ての領域においてCO<sub>2</sub>排出の削減力を発揮します。使用済み容器の回収とエコトレーの販売は、CO<sub>2</sub>対策における2本の大きな柱になっています。

## 使用済み容器回収率アップに向けた活動

トレーと透明容器の回収拠点であるスーパーなどの店舗の方々に対し、回収率アップに向けた様々な提案をしています。現在トレーの回収率は約30%、回収がスタートして間もない透明容器も今後25%の回収率を目指しています。エフピコでは右のようなリサイクル啓発ポスターを6種類用意し、店内に掲示していただくなどの協力を仰いでいます。持続可能な社会の発展に向け、使用済み食品容器回収の拡大を目指してまいります。



## スーパー各社による回収率アップに向けた取り組みの例

マツヤ様 事例  
(長野県30店舗)



回収したトレーが「エコトレー」へとリサイクルされることをお知らせし、回収の効果と社会的な貢献を明確にしています。

ヤマザワ様 事例  
(山形県・宮城県61店舗)



オリジナルポスターで透明容器回収のスタートをアピールしている他、回収品を透明な蓋により見せることで不適品混入防止と回収への関心を高めています。

パレマルシェ様 事例  
(愛知県・岐阜県・静岡県19店舗)



リサイクル啓発DVD「ぐるぐるリサイクル家族」の放映や豊富なポスター掲示により回収率の向上と不適品の減少に繋がっています。



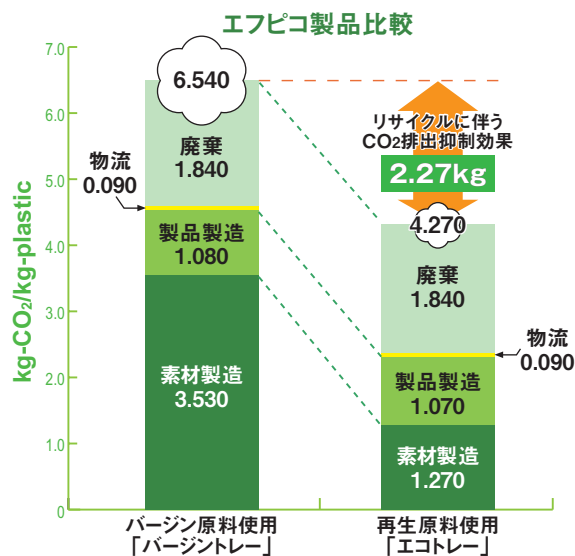
お客様との日頃のコミュニケーションに基づく信頼関係があればこそ、環境対策に関する提案も可能となるのです。



## エコトレーの販売拡大によるCO<sub>2</sub>削減

エコトレーはCO<sub>2</sub>削減において二重の効果があります。まず使用済みトレーを回収した時点で、廃棄されなかった分のCO<sub>2</sub>が減ります。そして回収したトレーがエコトレーになれば、製造工程においてバージン原料ではなく再生原料を使いますから、素材製造時に排出されるはずのCO<sub>2</sub>が減ることになります。エコトレーの認知度を高め、もっと普及していくことでCO<sub>2</sub>の削減につなげたいと考えています。

エコトレーを1kg(約250枚)使うと約2.27kgのCO<sub>2</sub>排出抑制効果



※エコライフ基準をベースにした計算・検証結果

## お客様への工場見学ご招待

使用済み容器の回収率アップやエコトレーの販売拡大を目指す上でも、問屋やスーパーなど様々な側面で協力をいただいているお客様に、トレーや容器のリサイクルの現状を知っていただくことが重要です。そのためエフピコの営業スタッフは、積極的にお客様を工場見学へと招待しています。実際にリサイクル工場をご覧いただくことで、お客様の意識も随分と変わったという声をいただいています。営業スタッフからお誘いの声があった時には、是非エフピコのリサイクル工場を見学してみてください。新しい発見が必ずあるはずです。



トピックス

「ITpro EXPO 2009」審査員特別賞受賞

2009年10月28～30日に東京ビッグサイトで行われた「ITpro EXPO 2009」においてエフピコは、グリーンITアワードの審査員特別賞を受賞しました。IT技術を活用することで、ビジネスの成長と環境負荷削減を実現する、というのがこのアワードの趣旨です。受賞のポイントは主にコストとCO<sub>2</sub>排出量の大幅な削減で、①配車計画・倉庫管理システム、②電子帳票システムの導入、③テレビ会議やウェブカタログなどの分野における成果です。



トピックス

岐阜県に新たなリサイクル工場用地を確保

2009年8月11日、岐阜県安八郡輪之内町役場庁舎にて、「輪之内町南波工業用地誘致協定、売買契約締結式」が行われました。締結式には、小松安弘会長、木野隆之町長、北島登議会議長、中島修土地開発理事長が出席し、協定書と契約書にそれぞれ署名しました。19,000㎡におよぶこの用地には、リサイクル工場と配送センターの建設が予定されています。「信頼できる企業の進出に感謝しています」という木野町長の言葉に応えるべく、中部地方でのリサイクル事業の拡張に努めてまいります。

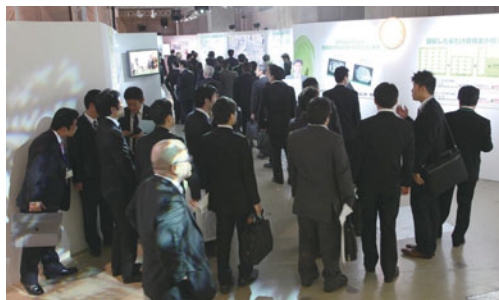


左から、北島議会議長、小松会長、木野町長、中島土地開発理事長

トピックス

エフピコフェアに環境コーナー

2010年3月に開催された「2010 エフピコフェア」において「環境・エコパートナー宣言」のコーナーを設けました。たくさんの方々の来場者の方々に展示をご覧いただき、激励の言葉もいただきました。これからもお客様や消費者の方々を始めとした全てのステークホルダーにとって最善のエコパートナーであり続けるために努力してまいります。



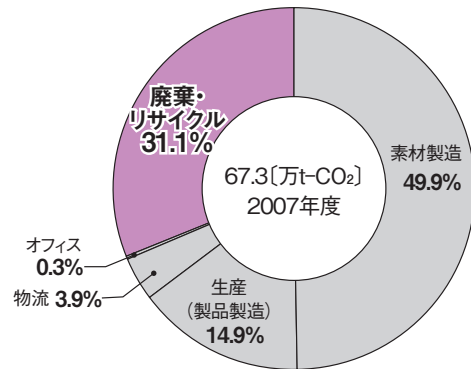
来場者からのお言葉

「興味深い内容でした。展示している説明パネルをうちの店舗にも掲出したいと思いました。」(首都圏スーパー様)  
 「県内の小学校からトレーのリサイクルに関する質問を受けていたので参考になりました。」(九州圏問屋様)  
 「トレーの回収はずっとやっていましたが、これからは透明容器もやろうと思います。」(東北圏問屋様)

# エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」<sup>®</sup>

食品トレーを使い捨てるものとして、何度も繰り返し利用するため、エフピコでは「エコトレー」(再生トレー)を生産しています。そのためリサイクルシステムをエフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」という名前で呼んでいます。使用済みトレーを廃棄せずに回収した分と再生原料の使用により、CO<sub>2</sub>削減のダブル効果があります。

生産者であるエフピコから最終的な使用者である消費者へと至る道を逆にたどり、使用済みトレーをエフピコへと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力で成り立っています。



素材製造の領域に次いでCO<sub>2</sub>の排出量が多いのは、製品の下流となる廃棄です。廃棄する使用済み製品を回収すればするほど、この領域のCO<sub>2</sub>は削減できます。





# トレー編



2010年で20年目を迎えたトレーのリサイクル。そのシステムは日々改良され、リサイクルの量だけでなく質も高くなっています。

## トレーのリサイクル工程

### 選別



### 搬入



回収されたトレーや容器は、各地区のリサイクル工場に搬入されます。

### 2次破碎



さらに細かく破碎します。



### エコトレー



品質検査



### ペレット

エコトレーの原料となるペレットの完成です。

### 溶融・押出



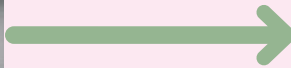
乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。



再生できないトレーなどを取り除き、白トレーとカラトレーに分類します。  
トレーの場合、選別工程には必ず手作業が必要であり、最も時間と手間が掛かります。



風力により細かい異物を取り除き、トレーを破碎します。



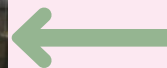
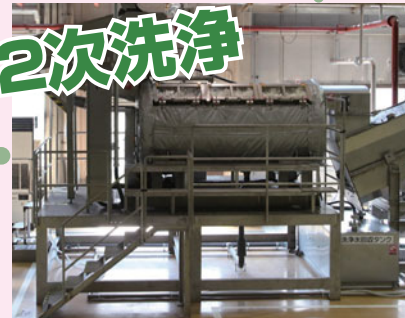
1次洗浄



浄化装置



2次洗浄



すすぎ洗浄～脱水



水ですすぎを行った後脱水します。

アルカリ温水で洗浄します。

## トピックス

### 温水循環装置を導入

福山リサイクル工場は1993年の竣工以来、常温浄水による徹底した洗浄を行っていましたが、今まで以上に高品質な再生ペレットを生産することを目的に温水洗剤洗浄装置を導入しました。この洗浄装置は温水+アルカリ洗剤による洗浄が加わったことが大きな特徴で、関東、中部リサイクル工場にも導入が計画されています。今後もペレット及びエコトレーの更なる品質アップのため、関連部署と連携して改善努力を進めてまいります。



# 透明容器編

## 透明容器のリサイクル工程



まだ始まったばかりの透明容器のリサイクル事業ですが、2010年10月には岐阜県にPET容器リサイクルプラントも導入します。

### 選別



透明容器を素材ごとに仕分けする流れ・・・選別

### 搬入



回収されたトレーや容器は、各地区の選別センターに搬入されます。

#### 1 投入



#### 2 傾斜コンベア



### エコトレー



品質検査



### ペレット

エコトレーの原料となるペレットの完成です。

#### 6 素材選別

- OPS ←
- PET ←
- PP ←
- PVC ←
- CS(クリスター) ←
- その他 ←



#### 5 素材識



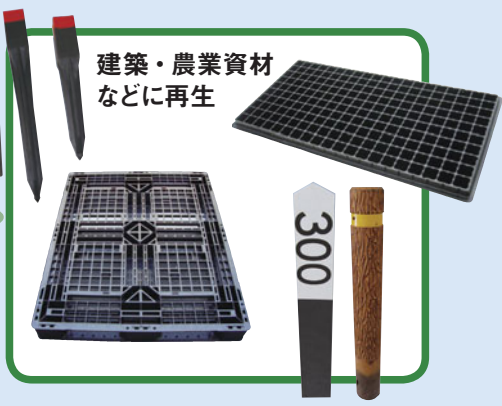
# 素材ごとに 破碎・洗浄

透明容器の選別は、そのほとんどを最新のシステムで機械が行います。



OPS、PET素材を洗浄しながら碎きます。

OPS  
PET  
以外



建築・農業資材  
などに再生

300

には赤外線による素材選別装置を使います。

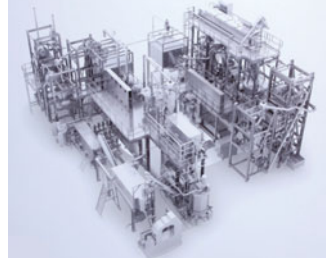
3 一列化



4 手選別・整列



2010年10月に完成予定の  
新中部リサイクル工場にて  
リサイクルスタート!



PET

# 溶融・押出



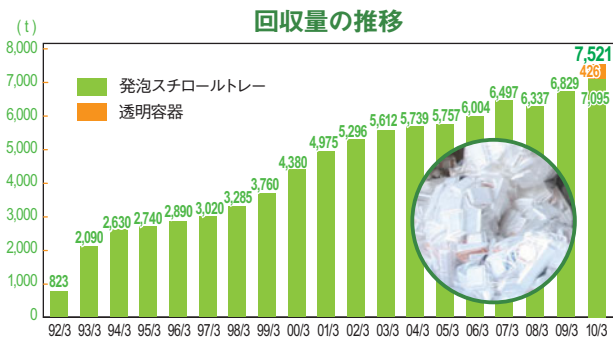
乾燥されたチップを溶かして  
粒状に加工します。

OPS

「トレー to トレー」の成果は廃棄物の削減、資源の有効活用にとどまらず、社会的コスト及びCO<sub>2</sub>排出量削減にまで及んでいます。

## トレーリサイクルの成果

2009年度に回収したトレーの数  
約18億8,025万枚/7,521トン



今までに削減した社会的コスト  
約383億円  
(ゴミ収集車約153万台)

※发泡スチロールトレーの回収量のみで計算

今までに節約した石油の量  
ドラム缶約103万本分  
(約20万5,820キロリットル)



※发泡スチロールトレーの回収量のみで計算

## 透明容器リサイクルの成果

2009年度までに回収した透明容器の量  
約505トン

透明容器のリサイクルを始めた2008年8月の回収量は約8トン、拠点数は192ヵ所でした。2010年3月期は、約1,500拠点に拡大し、累計の回収量は約505トンに達しています。

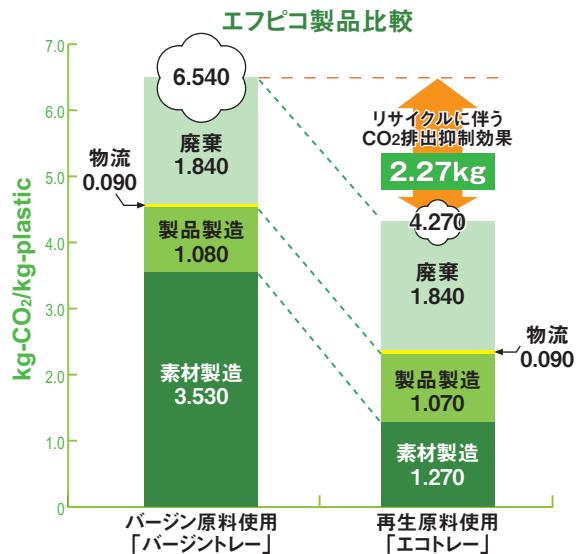
2009年度に削減したCO<sub>2</sub>の量  
約3万トン

エコトレーを使うことで2009年度  
年間約3万tのCO<sub>2</sub>排出抑制効果

エコトレーを年間約1万3,165t販売(2009年度)

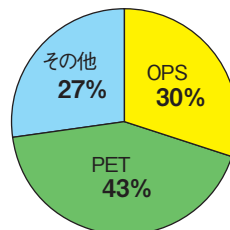


エコトレーを1kg(約250枚)使うと  
約2.27kgのCO<sub>2</sub>排出抑制効果



※エコライフ基準をベースにした計算・検証結果

透明容器 素材別回収割合(%)



回収される透明容器の種類はさまざまありますが、OPS(30%)とPET(43%)が主流です。

※その他(PP、PVC、CS)が27%

今後も发泡トレーのリサイクルに続き、透明容器のリサイクルも拡大させ、地域と密着したリサイクル活動を持続的に行ってまいります。

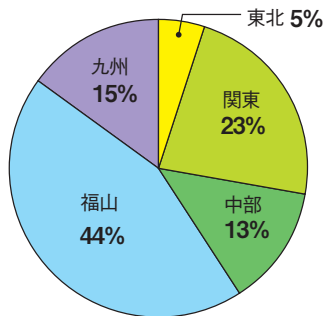
# 工場見学の受け入れ

エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を理解していただく上で、リサイクル工場の見学は欠かせません。工場に搬入され山積みされていく使用済みトレーや透明容器を見ただけでも、見学者の多くから感嘆の声が上がります。消費者と流通業者の方々に協力いただいて展開するこれほど大規模なリサイクルは、世界中どこを探してもありません。世界でも類を見ないリサイクル運動を展開している企業であることに、エフピコは大きな誇りと責任を感じています。

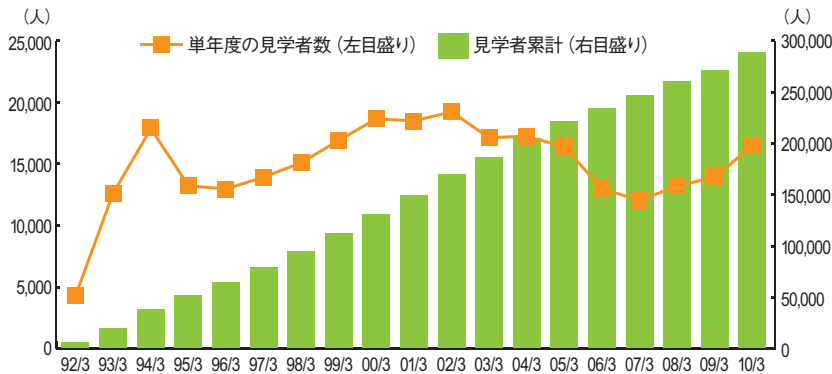
## 見学者数の推移と地域別内訳

リサイクル工場及び選別センターでは、毎年、小中学校や消費者団体をはじめ、スーパーマーケット、包材問屋、自治体、マスコミ、海外からの視察など、多数の方が見学に訪れます。2010年3月までの見学者の累計は約29万人にのぼります。

見学者の工場別内訳



見学者数の推移



小学生の社会科見学や環境教育の一環として活用いただいています。



消費者団体の方々による見学風景。日常的にトレーや容器に触れる家庭の主婦は最も協力をお願いしたい方々です。



流通業界の方々による見学会。家庭とエフピコを結ぶ重要な役割の方々にも、是非ご覧いただきたいと思っています。



## 工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）

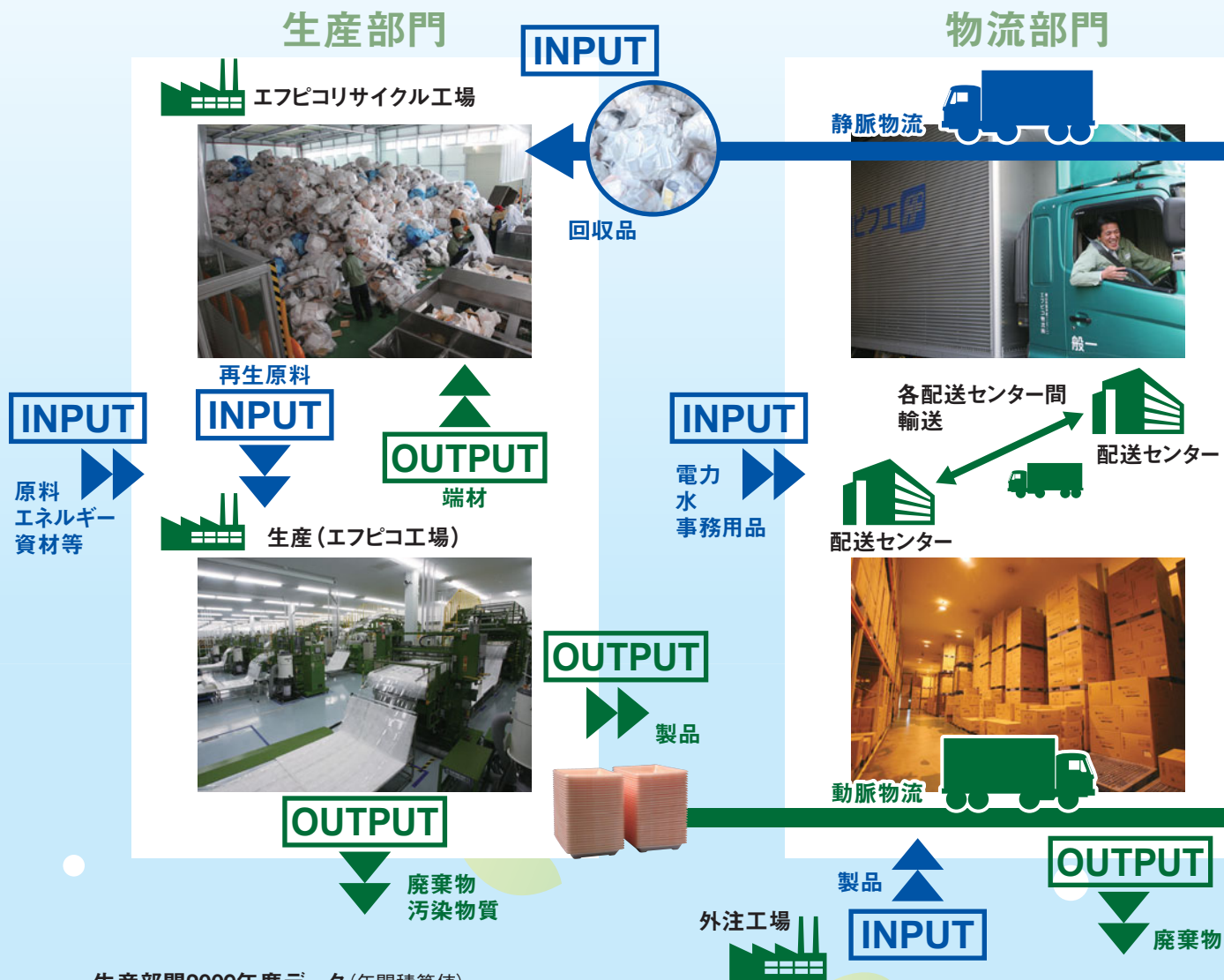
工場名	所在地	見学受付	1団体あたり最大受入人数
東北リサイクル工場	〒981-3601 宮城県黒川郡大衡村平場23-124 <small>おおひら</small>	管理課 022-345-1146	40名
関東リサイクル工場	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	東京本社秘書室 03-5325-7300	120名
中部リサイクル工場	〒503-0205 岐阜県安八郡輪之内町下大樽157-1 <small>しもおおくれ</small>	管理課 0584-69-2985	120名
福山リサイクル工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名
九州リサイクル工場	〒842-0102 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動1800-1 <small>いしなり</small>	管理課 0952-52-7877	50名

### 見学プログラムの一例

- リサイクルの流れの説明(10分)**  
工場のエントランスで食品トレーがリサイクルされるまでの流れを説明します。
- リサイクル工程の見学(30分)**  
トレーが運ばれてくるところからペレット（トレーの材料）になるまでをご覧いただきます。
- プレゼンテーション(25分)**  
エフピコが行っている食品トレーのリサイクル事業を詳しく説明します。
- 説明ビデオ(15分)**  
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧いただきます。
- 質問タイム(10分)**  
見学者からのさまざまな質問にお答えします。  
(計：約90分)

# データで見る「環境における取り組み」

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。  
 私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、  
 自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに務めています。



生産部門2009年度データ (年間積算値)

INPUT	エネルギー	電力	170,673,189 kWh
		化石エネルギー	13,875,594 MJ
	水資源 (合計389,056m <sup>3</sup> )	上水	122,206 m <sup>3</sup>
		地下水	203,217 m <sup>3</sup>
		工業用水	63,633 m <sup>3</sup>
	原料(樹脂類他)		152,613 t
副資材 (合計25,418t)		段ボール 包装ボリ	23,042 t 2,376 t
その他	潤滑油	11,118 L	
	シンナー	4,249 L	
	紙	2,363,154 枚	
	製品	製品生産重量 (内、エコレー生産重量)	128,947 t (11,703) t
OUTPUT	廃棄物	出荷トラック台数	98,085 台
			3,869 t
	環境汚染物質	煤塵	35 kg
		NOx	709 kg
		DXN類	0 mg-TEQ
		BOD	259 kg
		COD	266 kg
SS	384 kg		

物流部門2009年度データ (年間積算値)

INPUT		
エネルギー	電力	11,235,497 kWh
	化石エネルギー	5,406,820 MJ
水資源	上水	15,140 m <sup>3</sup>
副資材	段ボール	821 t
その他	紙	9,793,690 枚
OUTPUT		
廃棄物		200 t



**オフィス部門**



オフィス部門2009年度データ(年間積算値)

INPUT		
エネルギー	電力	1,866,875 kWh
副資材	段ボール	1 t
その他	紙	5,775,500 枚
OUTPUT		
廃棄物		95 t



Society

# 社会における取り組み

ステークホルダーのみならず、どこかで繋がっている人々のため、エフピコが企業市民として行っていることをご説明します。



社会から受ける様々な恩恵に感謝し、自分たちができることによって感謝を形にする。エフピコは社会との関係をそんな風に考えています。障がい者に働く機会を提供することも、豊かな食文化創造のお手伝いをするのも、エフピコにとっては同じ感謝の気持ちの表れなのです。





## 障害者雇用優良企業認定

この認証は、厚生労働省が発行するもので、障がい者就労支援に関して特に優れた取組みを行う企業に与えられるものです。エフピコは2009年に障害者雇用優良企業として認定を受けました。障がい者雇用のリーディングカンパニーとしての誇りと責任を持って、心のバリアフリー社会の実現に寄与していきたいと思えます。



## 「子育てにやさしい企業」

2005年に施行された「次世代育成支援対策推進法」に基づき、エフピコでは仕事と育児を両立して働ける環境づくりを行ってきました。その努力が実り、2008年7月に広島労働局より「基準適合一般事業主認定通知書」が授与され、『子育てにやさしい企業』として公的に認められました。女性社員のみならず男性社員による育児休業の取得、小さい子供を持つ従業員への短時間勤務制度、時間外労働の削減など、さまざまな成果が評価されたのです。



## トピックス

### 愛パックスの障がい者従業員がファッションショー出演

2009年10月3日、NPO法人勇気の翼による「勇気の翼2015ファッションショー」が東京代々木のYAMANO HALLで開催されました。これは、障がい者がモデルとなり著名人と一緒にステージを歩くというイベントであり、(株)茨城ピジョンリサイクルの辻田朋子とエフピコ愛パックス(株)茨城工場の矢口哲也の2名が参加する機会を与えられました。この日のショーのために8月からレッスンに参加し、現役のモデルさんから指導も受けました。当日は700名の観客が見守る中、2人は堂々とステージ上で笑顔で歩き、大いに観客を沸かせました。このイベントにはつくくみさん、美川憲一さんなどに加え、鳩山首相ご夫妻の参加もありました。応援に駆けつけた佐藤社長と共に、愛パックスからの20名の応援部隊が大声援を送った感動の一日となりました。



▲辻田 朋子



▲矢口 哲也

## トピックス

### 首都高速沿いに屋外看板を設置

2009年10月より、首都高速3号渋谷線に隣接する港区南青山のビル屋上に、エフピコの屋外広告を掲出しました。社名部分にはグループ会社であるテイカ精密(株)のLED照明を採用し、環境にも優しい仕様となっています。

東京では初めてとなる屋外広告であり、エフピコへの環境への取り組みを広く社会にアピールする一翼を担っています。



## 株主とのかかわり

株主・投資家の皆さまからの信頼にお応えするため、会社情報の開示と経営の透明性の確保を通じてコミュニケーションの充実に努めています。株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。



## 企業価値の拡大

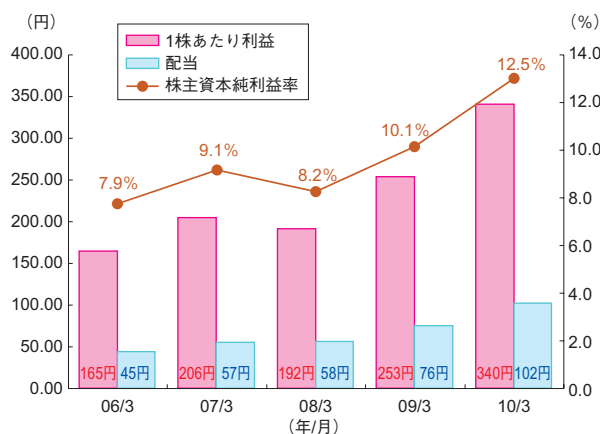
エフピコは、株主本位の経営を実践するため、グループ経営の諸施策を着実に実行し、企業価値を高め、1株当たり純利益400円を目標としています。メーカーとして「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針を追求してまいります。

株価の推移(大証)



## 継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益向上に見合った利益還元を最重要課題の一つと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株あたり102円(うち第2四半期期末配当金50円)の配当を実施しました。



## ホームページでの情報開示

ホームページの充実に伴い「株主・投資家情報」を整理して再掲載しました。以下の情報を常時ご覧いただくことができますので、是非ご活用ください。

### 業績ハイライト

- 売上高
- 経常利益、当期純利益
- 当期純利益、1株当たり当期純利益
- 自己資本、1株当たり自己資本
- 1株当たり当期純利益、自己資本当期純利益率(ROE)

### IR資料

- 有価証券報告書・四半期報告書
- 事業報告書
- 決算説明会プレゼン資料

### プレスリリース

### 株式情報

- IRカレンダー
- 株主情報/株主構成
- 株価情報
- 格付情報

 <http://www.fpc.jp/ir/>

## 社会における取り組み

# 消費者とのかかわり

エフピコと消費者の方々とを結ぶ接点は通常、製品のみに限られています。お互いの顔を見ながらコミュニケーションを取り、エフピコという会社を理解していただきたいという想いで、消費者の皆様との接点を求めて様々なイベントに参加しています。



## 各種展示会への参加

エフピコでは消費者の方々が登場する様々な展示会に積極的に参加し、エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」の仕組みや、「エコトレー」をはじめとする環境に配慮した製品、透明容器のリサイクル等を紹介しています。イベント来場者の方々と直接触れ合う機会を設けることで、トレー回収や環境負荷低減の活動についての意見交換・情報収集を行う貴重な場としています。



じばさんフェア2009



平成21年度「環境の日」ひろしま大会



福山市「第8回リサイクルフェスタ」



おかやまエコ&フードフェア2009

### エフピコが2009年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2009年 5月26日～29日	NEW環境展2009	東京都
6月 7日	平成21年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
7月31日～8月3日	第12回「環境広場 さっぽろ2009年」	北海道
10月 4日	福山市「第8回リサイクルフェスタ」	広島県
10月27日	鳥取環境ビジネス交流会	鳥取県
11月 1日	おかやまエコ&フードフェア2009	岡山県
11月 5日	やまぐち・もみじビジネスマッチングフェア2009	福岡県
11月14日～15日	じばさんフェア2009	広島県
11月23日	第1回府中エコ博「あきかん」	東京都
12月10日～12日	エコプロダクツ2009	東京都
2010年 2月 5日～6日	ビジネスフェア中四国2010	広島県
2月11日	フリーマーケット「バス・マイ・フェイスバレット」	広島県
2月19日	第7回 Business Link 商売繁盛 at INTEX OSAKA	大阪府

## DVD「ぐるぐるリサイクル家族」の配布

食品トレーと透明容器のリサイクル推進を目的とした約15分のDVDを、各地の小学校などの公共機関に無料配布しています。コメディタッチでリサイクルの方法を楽しく、分かりやすく説明しています。エフピコが制作したのですが、映像の中でも社名は出さず、企業色を排除したい公共機関などでも使っていただけるよう配慮しました。

このDVDをご希望の方は、巻末のエフピコ環境対策室までご連絡ください。



## お客様とのかかわり

6年ぶりに東京ビッグサイトで開催したエフピコフェアには、  
たくさんのお客様にご来場いただきました。  
日頃のご愛顧に加えてのご来場、誠にありがとうございました。

2010エフピコフェア

お店のチカラ

- The power of the store -



## お客様と共に発展していくために

2010年3月16～18日、東京ビッグサイトの西4ホールで「2010エフピコフェア」を開催しました。過去5年間においてはミニフェアとして全国4ヵ所の会場で開催してきましたが、東京での大規模なフェアはこれが6年ぶりとなります。

数千種類もの製品を持つエフピコにとって、様々な製品を一堂にお見せできるエフピコフェアは、お客様とのコミュニケーションを深める上で絶好の機会です。新しく開発した製品を紹介したり、普段は一度にお見せできない製品を比較していただいたりと、エフピコが現在持っているものの全てをご覧いただく場となりました。

エフピコフェアの最大の特長は、お客様視点で展示づくりを行う点にあります。単純に製品の展示会とするのではなく、どうすれば売場でエフピコ製品を上手に役立てることができるのかをお客様にご提案します。さらには、食品容器という製品の枠にとらわれずユーザー様の視点での売り

場全体の提案や売り方の提案までも行います。

お客様と共に発展していくため、お客様視点そして業界視点での提案型フェアを今後も続けてまいります。





## 6つの「エモーショナルマーケット」

「2010エフピコフェア」の目玉企画のひとつは「6つのエモマー」と題して展開した6店舗の売り場再現でした。「売れる店はお客様の心を掴む何かがある」という考えのもと、消費者が感情移入できる売り場を創り上げることに成功したスーパー6店舗にご出展いただきました。

- ハローデイ (福岡県)
- スーパーマーケット NISHIYAMA 荒河店(京都府)
- クッキー ラークス川内店(鹿児島県)
- サンシャイン ベルティス店(高知県)
- どんたく アスティ店(石川県)
- 知久屋 本郷店(静岡県)

ご出展いただいた店舗の皆さまからは、以下のようなお言葉をいただきました。今後も新たな企画でお客様に売り場の提案をしています。

「短い時間にもかかわらずうちの店を見事に再現していただき、ありがとうございました」

「今回の各部門のスーパー様の売り場は本当に参考になる。今度は是非違う部門を挑戦してみたい」

「今回エフピコフェアに出展させてもらい本当に光栄でした。次回数年後にされることがあったら参加できるようにこれからも切磋琢磨していきたい」

「今回一緒に出展したご縁を今後もお互いの勉強会に参加しながら続けていきたい」

# 障がい者の雇用

エフピコは障がい者の雇用に積極的に取り組んでいます。当たり前が当たり前になれる社会になるよう、企業市民のひとりとしてお手伝いをさせていただいています。

## 全国に広がる障がい者雇用の場



### 愛バック事業

就労継続支援A型事業



一般の企業で就労することが困難な障がい者を対象とした愛バック事業では、継続的な職場とするための体制を整備しています。サービス管理責任者や専任の指導員のもと、各自の適性や能力に合わせた仕事を通して、社会的に自立できる力を身に付けていきます。

◎就労継続支援A型

一般の企業で就労することが困難な障がい者を雇用し、福祉サービスを受けながら就労するスタイルの事業所。

### ダックス事業

特例子会社



ダックス事業で行っている容器成形の工場では、工程が半オートメーション化され、手作業の部分を障がい者が担当しています。障がい者と健常者が同様の職務を担いながら共に働く職場は常に活気に満ちています。

◎特例子会社

障がい者の雇用に特別に配慮して、民間企業の中に雇用率制度の特例措置として設立された子会社の事。

### エフピコハートリサイクル

就労継続支援A型事業・特例子会社・事業提携



使用済みトレーの選別作業や透明容器の選別・整列作業などを行っています。それぞれの職場にはサービス管理責任者や専任の指導者を配置し、職場での基本的な生活をサポートしながら、障がい者一人ひとりの能力向上を目指しています。

◎事業提携

社会福祉法人など各地の事業母体にエフピコが回収した使用済み容器の選別作業を委託している事。



エフピコ愛パックの障がい者従業員。  
「ATARIMAE PROJECT」に登場した岡本もここで働いています。

順番	日直の指令
1	「おはようございます！」
2	「出勤 遅刻をします。」 →お祈り、遅刻・早退の入を伝える
3	「今日の仕事の目標を確認します。」
4	「今日の目標を確認します。」 →今日の目標を確認
5	「昨日の生産量を確認します。」 →生産量の報告を待ち
6	「スタッフからの連絡事項はありますか？」
7	「メンバーからの連絡事項はありますか？」
8	＊日直からのこと →日直が知りたいことを確認する
9	「今日の一日よろしくお祈りします。」

貼り出された朝礼の手順。  
朝礼の司会は日直の担当で、  
発表や伝達事項は決して少  
なくありません。今日1日の目  
標も確認し、仕事が始まりま  
す。



仕事中は真剣そのものでも、  
昼食や休憩の時間となれば、  
笑顔がこぼれます。昼食は  
45分、休憩は1日1回で15分  
です。

## トピックス

### エフピコ愛パックの障がい者従業員が吉本新喜劇座長と対談

多くの人が味わっている「働く喜び」を障がい者にも。そして、障がい者があたりまえに働ける社会の実現を。という願いのもとに立ちあがった障がい者雇用支援総合ポータルサイト「ATARIMAE PROJECT」。エフピコも企業サポーターとして参加しています。

このサイトの「著名人とのクロストーク・はたらくちから。」のコーナーに、エフピコ愛パック(株)の岡本悦子が登場しました。

対談のお相手は吉本新喜劇座長の川畑泰史さんです。「働くことが楽しい」という岡本の言葉に同調する川畑さん。また、プライベートではお芝居をしていて「吉本に入りたい」と言う岡本に対し、「給料は少ないです」とボケる川畑さん。2人の漫才さながらのやりとりを是非「ATARIMAE PROJECT」のサイトをご覧ください。

ATARIMAE PROJECT  
障害者があたりまえに働けるニッポンへ

<http://www.atarimae.jp>



# 従業員とのかかわり

従業員との間に信頼関係を築くのは、決して簡単なことではありません。約束をしてそれを守ること、期待を掛けてそれに応えてくれるのを待つこと。たくさんの苦勞を共にしながら、一緒に失敗と成功を経験していくことで、少しずつ信頼関係は育ちます。会社の発展と共に従業員との関係も発展させるための努力は続きます。

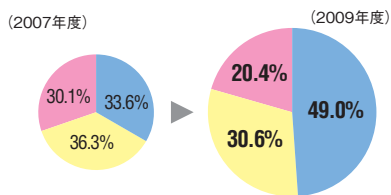


## 社内アンケート調査の結果報告

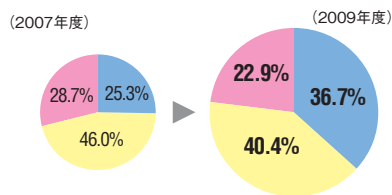
エフピコは従業員を会社の大切な財産と考えていますが、その考えがどの程度実現されているかを計るため定期的に社内アンケートを実施しています。前回実施した2007年度の結果と比べると、全ての項目において発展的な結果が得られました。決してこの結果に満足することなく、「はい」という回答が100%に近づくことを目指します。

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ

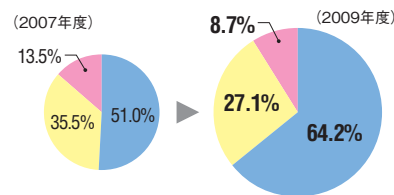
### 休日、長期休暇は十分ですか。



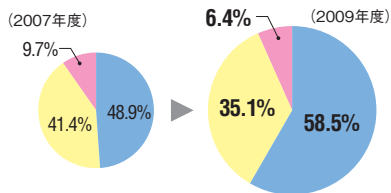
### 厚生施設のあり方、内容に満足していますか。



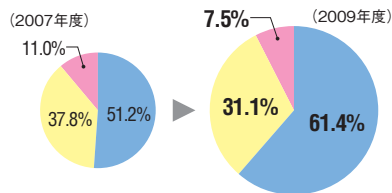
### 働く環境は良いと思いますか。



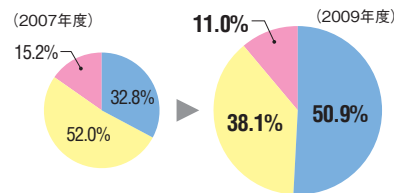
### 職場は明るく、活気がありますか。



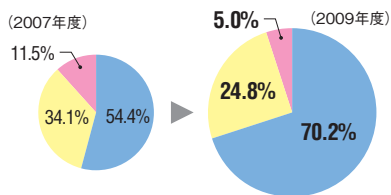
### 職場のチームワークは良いですか。



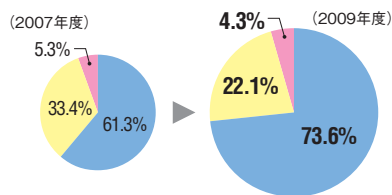
### 今の社風を好ましいと思っていますか。



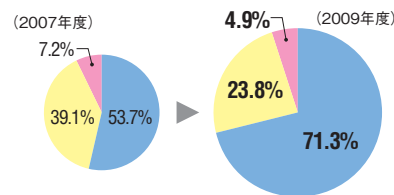
### 社員の定着性は良いですか。



### 今後も、続けてこの職場で働きたいですか。



### 今の会社に「誇りと自信」を感じますか。



## 海外研修と社員旅行

毎年恒例の海外研修に今期は37名が参加しました。

また、各部署やグループ会社単位による社員旅行も数多く慣行されています。



ハワイへの研修旅行



生産企画部の岩国・広島日帰り旅行



情報システム部による城崎・京都カニの旅



# エフピコのあゆみ

## 沿革・表彰

1962	7月 福山パール紙工(株)設立。広島県福山市霞町に本社を設置し、PSP成型加工を開始	1997	12月 新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(福山市)を竣工
1968	3月 業容発展に伴い、本社を現在地(福山市曙町)に移転	1998	10月 福山配送センターに新倉庫竣工
1971	1月 ウッド組立食品容器の製造を開始	1999	2月 代表取締役社長小松安弘が『第19回毎日経済人賞』を受賞
1972	4月 福山配送センターを開設	4月 エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始	
1975	9月 総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立	10月 新素材容器「ハイスター」を開発	
1976	6月 自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催	『リサイクル推進功労者等表彰事業』にて『内閣総理大臣賞』受賞	
1979	7月 配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立	2000	1月 特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県)を竣工
1980	1月 物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する	MAPS(容器内気体調節式包装システム)デザインセンター(福山市)を新設し実験開始	
1981	6月 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始	3月 東京証券取引所市場第二部に株式上場	
1982	3月 高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発	関東つくば工場(茨城県)を稼働開始	
1983	4月 東京支店を開設	5月 エフピコモダンバックにて、インターネットとCD-ROMを利用した通信販売を開始	
	10月 大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発	7月 関東下館工場(茨城県)を稼働開始	
1984	5月 代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任	10月 近畿亀岡工場(京都府)を稼働開始	
1985	1月 東京配送センターを開設	2001	2月 関東第2配送センター(茨城県)を稼働開始
2月 総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催。大阪支店を開設	5月 「エンターバック(ワンタッチ自動トップシール機)」の国内独占販売契約を韓国エンターライン社と締結	7月 「第4回エコライフびわ湖賞」にて「アイディア部門優秀賞」受賞	
5月 福山第二配送センターを開設	11月 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更	東京本社にキッチンスタジオを開設	
6月 総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催	2002	2月 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始	
1987	1月 ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始	2003	1月 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は平成15年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は平成17年5月更生手続終結)
4月 100%出資の子会社エフピコ商事(株)を設立	7月 東日本ハブセンター完工	7月 山形工場稼働開始(山形県寒河江市)	
9月 大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工	11月 「ウエステック大賞2003」にて「事業活動部門賞」受賞	2004	3月 東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
12月 フロンガスを使用したPSPを全廃	2005	5月 東北配送センター(宮城県黒川郡)を山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転	
1988	3月 カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設	12月 東京本社2階にテイクアウトの形態で容器とメニューの研究開発を目的とする惣菜店舗「Cook Labo(クックラボ)」を開設	
12月 ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう	2006	9月 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場	
1989	1月 CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める	『愛・地球賞(財)日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催』を受賞	
7月 中部配送センターを開設	2006	6月 サンプル受付センターを稼働開始	
11月 広島証券取引所に株式上場	特例子会社(株)ダックス佐賀設立	9月 (株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞	
1990	12月 東北配送センターを開設	10月 就労継続支援A型子会社を目的とする「広島愛バック(株)」設立	
1991	2月 大阪証券取引所市場第二部に株式上場	12月 「財)小松育英会」設立	
4月 新物流センター本部を開設	2007	2月 関東下館第2工場を稼働開始	
バルディーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞	3月 就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立	3月 就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立	
5月 九州配送センターを開設	4月 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞	4月 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞	
1992	10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が「平成4年度リサイクル推進功労者賞」受賞	8月 エフピコ八千代センターを稼働開始	
12月 リンバック プラスチックス インターナショナル社(英国)と技術供与契約を締結	エフピコ愛バック(株)佐賀工場を稼働開始	エフピコ愛バック(株)佐賀工場を稼働開始	
1993	3月 「財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞	「ものづくり大賞」にて「経済局長賞」受賞	
1994	10月 関西配送センターを開設	9月 エフピコ愛バック(株)岐阜工場、茨城工場を稼働開始	
1995	4月 物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管	10月 エフピコ愛バック(株)西宮工場、山形工場を稼働開始	
1996	2月 「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞	12月 本社新社屋(福山)竣工	
4月 第22回「エフピコフェア96」を東京で開催。以降、毎年4月に東京ビッグサイトで開催	2008	2月 退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立	
6月 「第4回横浜環境保全活動賞」受賞	8月 日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞	2009	3月 第1回ふくやま環境賞「事業所部門」受賞
10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が「通商産業大臣賞」受賞	5月 西関東ピッキングセンター稼働(東京都町田市)	6月 太平洋興業(株)より包材部門を事業譲受	
1997	1月 ホームページを開設	代表取締役会長 小松安弘が「第11回企業家賞」を受賞	
3月 「財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞	8月 (株)茨城ビジョンリサイクルを設立	10月 (株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立	
5月 代表取締役社長小松安弘が「藍綬褒章」を受賞			
6月 福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞			
8月 「HMRトップセミナー」を開催			
9月 社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしま賞」受賞			
10月 日本食糧新聞主催「第6回食環境資源協力賞」受賞			
「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞			

## 環境・リサイクル

## 環境関連法規制・食の安全

1990	9月 エフピコ方式のリサイクルスタート	1990	8月 IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が地球温暖化を警告	
	12月 笠岡リサイクルセンター稼働開始		1991	10月 「資源の有効な利用の促進に関する法律(通称:リサイクル法)」施行
1991	10月 関東リサイクルセンター稼働開始	1992		6月 リオデジャネイロで第1回地球サミット開催
	東北リサイクルセンター稼働開始		1993	2月 国連が「持続可能な開発委員会」を発足
	エコトレーが業界初のエコマーク認定			11月 「環境基本法」施行
1992	3月 エコトレー販売開始	1995	7月 「製造物責任法(PL法)」施行	
	4月 環境対策室設置		1997	4月 「容器包装リサイクル法」施行(ペットボトル、ガラス)
	5月 中部リサイクルセンター稼働開始	12月 COP3(第3回気候変動枠組み条約締結国会議)が京都で開催 「京都議定書」採択		
	7月 鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始	1999		7月 官報(号外第143号)容器包装リサイクル法にて当社のリサイクル及び「トレー to トレー」の再商品化が明文化される。
	9月 九州リサイクルセンター稼働開始			2000
	10月 学校回収スタート、社内のトレー回収スタート	4月 「容器包装リサイクル法」の全面実施(その他紙及びその他プラが追加)		
1993	2月 福山リサイクルセンター稼働開始	2001	5月 O-157 発生	
	12月 沖縄減容工場稼働開始		6月 「循環型社会形成推進基本法」施行	
1996	2月 北海道リサイクルセンター稼働開始	2001	4月 「グリーン購入法」施行	
	8月 エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得		「家電リサイクル法」施行	
	11月 沼津リサイクルセンター稼働開始		5月 「食品リサイクル法」施行	
1998	4月 関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入		2002	9月 BSE 発生
	7月 工場見学者累計100,000人突破	4月 「PRTR法」施行		
	8月 福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入	「建設資材リサイクル法」施行		
1999	4月 主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001認証取得	2003	2月 「土壌汚染対策法」施行	
	2000		5月 エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)	4月 「改正省エネ法」施行
10月 各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更			6月 「食品安全基本法」施行	
11月 関東リサイクル第1工場稼働開始 旧工場を関東リサイクル第2工場に改称			7月 食品安全基本法施行に伴ない内閣府に食品安全委員会設置	
2001	5月 東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖	2004	1月 鳥インフルエンザ発生	
	9月 福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設		2005	1月 「自動車リサイクル法」施行
2003	2月 関東リサイクル第1工場でISO14001認証取得	2月 「京都議定書」発効		
	3月 岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定	2006	4月 「改正省エネ法」施行	
	4月 関東リサイクル第1、第2工場を集約 関東リサイクル工場に改称		「改正温対法」施行	
	5月 佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定	2007	4月 「改正容器包装リサイクル法」施行	
	6月 岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定		12月 「改正食品リサイクル法」施行	
	10月 宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定		2008	1月 中国毒入り餃子事件
	11月 工場見学者 累計200,000人突破	7月 G8北海道洞爺湖サミット 「低炭素社会づくり行動計画」策定		
2004	3月 広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録	2009	5月 カーボンフットプリント算定・表示試行事業のスタート	
	12月 「トレー to トレー」が第20類&第40類で商標登録(第4322974号)		6月 WHO、新型インフルエンザの世界的流行病(パンデミック)宣言	
2005	4月 CO <sub>2</sub> マネジメント委員会設置		9月 鳩山首相、温暖化ガス「2020年25%削減」を表明	
	5月 「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)		12月 COP15(第15回気候変動枠組み条約締結国会議)	
	11月 笠岡工場ISO9001認証取得	2010	3月 温暖化対策基本法、国会提出	
2006	3月 関東下館工場ISO9001認証取得		4月 改正省エネ法、改正温対法の施行	
	近畿亀岡工場ISO9001認証取得	2007	10月 屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)	
4月 環境経営5ヵ年計画スタート	12月 太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始			
2008	8月 茨城選別センターを稼働開始	2008	8月 西宮選別センター、岐阜選別センターを稼働開始	
	10月 西宮選別センター、岐阜選別センターを稼働開始		2009	1月 福山選別センターを稼働開始 (株)金沢容器リサイクルを稼働開始
2009	8月 佐賀選別センター稼働開始	8月 佐賀選別センター稼働開始		
	9月 福山リサイクル工場に新洗浄ラインを導入	9月 福山リサイクル工場に新洗浄ラインを導入		
	2010	3月 茨城県にて「エコトレー」がリサイクル製品に認定	2010	3月 温暖化対策基本法、国会提出
		4月 改正省エネ法、改正温対法の施行		

## ● 編集後記 ●

2009年度は後で振り返れば、この国にとって大きな転機になった1年と言えるかも知れません。世界は大きく変わり始め、日本でも50数年ぶりの政権交代が起きました。そして経済界は、いつ終わるとも分からない長い不況に悩まされ続け、我々は生き残るための変化を迫られています。

政権交代後の9月に総理大臣が国連で演説した内容は、環境対策室の業務にも大きな変化を促すことになりそうです。2020年までにCO<sub>2</sub>を25%削減するという目標は、エフピコの環境対策を見直すことに繋がるでしょう。

このような変化の時、20年間にわたり培ってきた製品のリサイクル活動の経験は貴重な財産となります。それまで誰もやっていなかったことをゼロからスタートし、20年間改善を続けてきた私たちにとって、社会の変化への適応は決して新しいことではありません。

従業員一丸となってエコバリューチェーンを構築し、大きな目標を達成するため、さらなる努力と工夫と忍耐を続けていく覚悟でいます。

2010年6月

環境対策室 松尾和則

「2010 CSR Report」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございました。CSRレポートへのご意見・ご質問等は、以下にアクセスいただけますよう、お願い申し上げます。

<http://www.fpco.jp/>

TOP >> 環境への取り組み >> CSRレポート >> CSRアンケート

## 2010 CSR Report

発行日：2010年6月

### ●制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室  
〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号  
新宿オークタワー（総合受付36階）

TEL 03-5325-7800

FAX 03-5325-7811

E-mail：EcoTray-FP@fpco-net.co.jp

ホームページ：http://www.fpco.jp/



## 2010 CSR Report

To be a company that links people with people,  
people with nature, and companies with society.



株式会社エフピコ

- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号 TEL(084)953-1145
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F TEL(03)5320-0717
- 大阪支店 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町1-1-8 第一火災千里中央ビル6F TEL(06)6835-5370
- 営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

ホームページ <http://www.fpcoco.jp/>

eメール [EcoTray-FP@fpcoco-net.co.jp](mailto:EcoTray-FP@fpcoco-net.co.jp)

